

## JS04-PDF-001

4-1 骨盤・股 > 骨盤損傷 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：骨盤損傷・骨盤骨折の出血リスクを理解する】「大量出血によるショック」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨盤骨折の代表的全身合併症ではない。
- イ. 骨盤骨折急性期の主要全身合併症ではない。
- ウ. 上肢末梢神経障害である。
- エ. 骨盤骨折では骨盤内・後腹膜への大量出血を伴い、循環性ショックに至ることがある。

## 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「末梢性顔面神経麻痺」に関する内容で、今回の「大量出血によるショック」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「肩関節拘縮」に関する内容で、今回の「大量出血によるショック」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「手根管症候群」に関する内容で、今回の「大量出血によるショック」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「大量出血によるショック」を適切とする根拠に直接対応する。  
総合解説：この論点では「大量出血によるショック」が適切である。根拠は、骨盤骨折では骨盤内・後腹膜への大量出血を伴い、循環性ショックに至ることがある。

## JS04-PDF-002

4-1 骨盤・股 > 骨盤損傷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：骨盤損傷・骨盤輪の基本解剖を理解する】実習生が「肩甲骨と鎖骨」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 下腿骨である。
- イ. 前腕骨である。
- ウ. 肩帯を構成する骨である。
- エ. 骨盤輪は左右の寛骨と仙骨を中心に構成される。

## 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「脛骨と腓骨」に関する内容で、今回の誤判断「肩甲骨と鎖骨」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「橈骨と尺骨」に関する内容で、今回の誤判断「肩甲骨と鎖骨」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「肩甲骨と鎖骨」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「左右の寛骨と仙骨」に関する内容で、今回の誤判断「肩甲骨と鎖骨」の理由ではない。

総合解説：「肩甲骨と鎖骨」は不適切である。理由は、肩帯を構成する骨である。この論点での適切な判断は「左右の寛骨と仙骨」である。

## JS04-PDF-003

4-1 骨盤・股 > 骨盤損傷 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：骨盤損傷・骨盤骨折の緊急性を判断する】「不安定骨盤骨折と出血性ショックを疑い、緊急対応を優先する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 出血を悪化させる危険がある。
- イ. ショック所見があり迅速な医療対応が必要である。
- ウ. 骨盤骨折と循環不全を示唆する所見があり、局所より生命維持を優先する。
- エ. 出血や疼痛を増悪させる可能性がある。

## 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「軽い筋挫傷として歩行させる」に関する内容で、今回の「不安定骨盤骨折と出血性ショックを疑い、緊急対応を優先する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「数時間安静のみで経過を見る」に関する内容で、今回の「不安定骨盤骨折と出血性ショックを疑い、緊急対応を優先する」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「不安定骨盤骨折と出血性ショックを疑い、緊急対応を優先する」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「骨盤を何度も強く揺さぶって確認する」に関する内容で、今回の「不安定骨盤骨折と出血性ショックを疑い、緊急対応を優先する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「不安定骨盤骨折と出血性ショックを疑い、緊急対応を優先する」が適切である。根拠は、骨盤骨折と循環不全を示唆する所見があり、局所より生命維持を優先する。

## JS04-PDF-004

4-1 骨盤・股 > 骨盤損傷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：骨盤損傷・高齢者の脆弱性骨盤骨折を理解する】実習生が「変形がないため骨折を完全に否定する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 高齢者では骨粗鬆症を背景に軽微な外力でも骨盤骨折が起こり、初期診断が難しいことがある。
- イ. 脆弱性骨折では変形が目立たないことがある。
- ウ. 歩行可能な骨盤骨折も存在する。
- エ. 高齢者の脆弱性骨盤骨折も重要である。

## 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「骨脆弱性骨盤骨折を考え、症状が続けば画像評価を行う」に関する内容で、今回の誤判断「変形がないため骨折を完全に否定する」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「変形がないため骨折を完全に否定する」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「歩ければ骨折は絶対はない」に関する内容で、今回の誤判断「変形がないため骨折を完全に否定する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「若年者だけに起こる損傷と考える」に関する内容で、今回の誤判断「変形がないため骨折を完全に否定する」の理由ではない。

総合解説：「変形がないため骨折を完全に否定する」は不適切である。理由は、脆弱性骨折では変形が目立たないことがある。この論点での適切な判断は「骨脆弱性骨盤骨折を考え、症状が続けば画像評価を行う」である。

## JS04-PDF-005

4-1 骨盤・股 > 骨盤損傷 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：骨盤損傷・骨盤剥離骨折の発生機序を理解する】「筋の急激な強収縮により付着部が牽引される」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. スポーツ時の強い筋収縮が典型である。

イ. 代表的機序ではない。

ウ. 骨の剥離を直接起こす機序ではない。

エ. 成長期では筋腱付着部に強い牽引力が加わり、骨端部の剥離骨折を生じることがある。

## 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「安静臥床だけで必ず生じる」に関する内容で、今回の「筋の急激な強収縮により付着部が牽引される」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「皮膚感染だけで生じる」に関する内容で、今回の「筋の急激な強収縮により付着部が牽引される」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「末梢神経圧迫だけで生じる」に関する内容で、今回の「筋の急激な強収縮により付着部が牽引される」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「筋の急激な強収縮により付着部が牽引される」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「筋の急激な強収縮により付着部が牽引される」が適切である。根拠は、成長期では筋腱付着部に強い牽引力が加わり、骨端部の剥離骨折を生じることがある。

## JS04-PDF-006

4-1 骨盤・股 > 骨盤損傷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：骨盤損傷・骨盤骨折の泌尿器合併症を理解する】実習生が「手指のばね現象」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 骨盤骨折では膀胱・尿道などの尿路損傷を合併することがあり、血尿・排尿障害が手掛かりとなる。

イ. 手指腱鞘の病態である。

ウ. 骨盤内臓器損傷と無関係である。

エ. 泌尿器損傷を示さない。

## 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「血尿や排尿困難」に関する内容で、今回の誤判断「手指のばね現象」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「手指のばね現象」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「足趾の巻き爪」に関する内容で、今回の誤判断「手指のばね現象」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「肩外転制限だけ」に関する内容で、今回の誤判断「手指のばね現象」の理由ではない。

総合解説：「手指のばね現象」は不適切である。理由は、手指腱鞘の病態である。この論点での適切な判断は「血尿や排尿困難」である。

### JS04-PDF-007

4-1 骨盤・股 > 骨盤損傷 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：骨盤損傷・骨盤外傷の安全な評価を理解する】「骨盤の不安定性を確認するため何度も強く圧迫する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. ではない。出血性ショック評価に重要である。
- イ. 反復する強い圧迫は疼痛・出血を悪化させる可能性がある。
- ウ. ではない。骨盤内臓器損傷の評価に重要である。
- エ. ではない。骨折型・出血評価に必要である。

### 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「血圧・脈拍など全身状態を確認する」に関する内容で、今回の「骨盤の不安定性を確認するため何度も強く圧迫する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「骨盤の不安定性を確認するため何度も強く圧迫する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「腹部・会陰部の損傷徴候を確認する」に関する内容で、今回の「骨盤の不安定性を確認するため何度も強く圧迫する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「必要に応じ画像診断へつなげる」に関する内容で、今回の「骨盤の不安定性を確認するため何度も強く圧迫する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「骨盤の不安定性を確認するため何度も強く圧迫する」が適切である。根拠は、反復する強い圧迫は疼痛・出血を悪化させる可能性がある。

### JS04-PDF-008

4-1 骨盤・股 > 骨盤損傷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：骨盤損傷・不安定骨盤骨折と出血を関連付ける】実習生が「出血は皮膚表面にしか起こらないため」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 多数の重要血管が存在する。
- イ. 後腹膜などに大量出血することがある。
- ウ. 激痛を伴うことが多い。
- エ. 高エネルギーで骨盤輪が破綻すると骨性出血や血管損傷が大きくなり得る。

### 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「骨盤内には血管が存在しないため」に関する内容で、今回の誤判断「出血は皮膚表面にしか起こらないため」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「出血は皮膚表面にしか起こらないため」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「骨折が不安定なほど必ず無痛だから」に関する内容で、今回の誤判断「出血は皮膚表面にしか起こらないため」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「広い骨折面と骨盤内血管損傷を伴うことがあるため」に関する内容で、今回の誤判断「出血は皮膚表面にしか起こらないため」の理由ではない。

総合解説：「出血は皮膚表面にしか起こらないため」は不適切である。理由は、後腹膜などに大量出血することがある。この論点での適切な判断は「広い骨折面と骨盤内血管損傷を伴うことがあるため」である。

### JS04-PDF-009

4-1 骨盤・股 > 骨盤損傷 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：骨盤損傷・骨盤損傷の神経評価を理解する】「下肢の感覚と運動機能」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 骨盤・寛骨臼周囲の外傷では神経損傷を合併することがあり、下肢神経機能を評価する。

イ. 坐骨神経機能評価にならない。

ウ. 骨盤周囲神経障害とは無関係である。

エ. 下肢神経評価が必要である。

### 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「下肢の感覚と運動機能」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「視力だけ」に関する内容で、今回の「下肢の感覚と運動機能」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「聴力だけ」に関する内容で、今回の「下肢の感覚と運動機能」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「手指感覚だけ」に関する内容で、今回の「下肢の感覚と運動機能」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「下肢の感覚と運動機能」が適切である。根拠は、骨盤・寛骨臼周囲の外傷では神経損傷を合併することがあり、下肢神経機能を評価する。

### JS04-PDF-010

4-1 骨盤・股 > 骨盤損傷 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：骨盤損傷・骨盤骨折の画像評価を理解する】実習生が「画像検査は骨盤骨折に不要である」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 複雑な骨盤骨折ではCTが骨折形態や関節面評価に有用である。

イ. 骨折型や転位評価に重要である。

ウ. 患部画像が必要である。

エ. 局所が異なる。

### 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「X線に加え、必要に応じCTで骨盤輪・寛骨臼の骨折形態を評価する」に関する内容で、今回の誤判断「画像検査は骨盤骨折に不要である」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「画像検査は骨盤骨折に不要である」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「胸部X線だけで骨盤骨折を確定する」に関する内容で、今回の誤判断「画像検査は骨盤骨折に不要である」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「頭部MRIだけで骨盤輪を評価する」に関する内容で、今回の誤判断「画像検査は骨盤骨折に不要である」の理由ではない。

総合解説：「画像検査は骨盤骨折に不要である」は不適切である。理由は、骨折型や転位評価に重要である。この論点での適切な判断は「X線に加え、必要に応じCTで骨盤輪・寛骨臼の骨折形態を評価する」である。

## JS04-PDF-011

4-1 骨盤・股 > 骨盤損傷 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：骨盤損傷・骨盤骨折の多発外傷性を理解する】「腹腔内・骨盤内臓器損傷の合併を考慮する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 全身の外傷評価が必要である。
- イ. 重症外傷では合併し得る。
- ウ. 高エネルギー骨盤外傷では腹部臓器・尿路などの合併損傷を伴うことがある。
- エ. 両者は併存し得る。

## 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「局所骨痛だけを評価して終了する」に関する内容で、今回の「腹腔内・骨盤内臓器損傷の合併を考慮する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「骨盤骨折では内臓損傷は起こらないと考える」に関する内容で、今回の「腹腔内・骨盤内臓器損傷の合併を考慮する」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「腹腔内・骨盤内臓器損傷の合併を考慮する」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「腹痛があれば骨盤骨折を否定する」に関する内容で、今回の「腹腔内・骨盤内臓器損傷の合併を考慮する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「腹腔内・骨盤内臓器損傷の合併を考慮する」が適切である。根拠は、高エネルギー骨盤外傷では腹部臓器・尿路などの合併損傷を伴うことがある。

## JS04-PDF-012

4-1 骨盤・股 > 骨盤損傷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：骨盤損傷・骨盤骨折後の荷重管理を理解する】実習生が「受傷直後から全例で全荷重とする」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨盤輪の安定性や治癒状況に応じた荷重管理が必要である。
- イ. 荷重進行の重要な判断材料である。
- ウ. 不安定骨折では転位や疼痛を悪化させる可能性がある。
- エ. 治癒に応じ機能回復を進める。

## 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「骨折型、安定性、疼痛、全身状態を確認して段階的に進める」に関する内容で、今回の誤判断「受傷直後から全例で全荷重とする」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「疼痛・画像所見を一切考慮しない」に関する内容で、今回の誤判断「受傷直後から全例で全荷重とする」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「受傷直後から全例で全荷重とする」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「全例で永久に荷重禁止とする」に関する内容で、今回の誤判断「受傷直後から全例で全荷重とする」の理由ではない。

総合解説：「受傷直後から全例で全荷重とする」は不適切である。理由は、不安定骨折では転位や疼痛を悪化させる可能性がある。この論点での適切な判断は「骨折型、安定性、疼痛、全身状態を確認して段階的に進める」である。

### JS04-PDF-013

4-1 骨盤・股 > 大腿骨近位部 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：大腿骨近位部・大腿骨頸部骨折の疫学を理解する】「骨粗鬆症のある高齢者」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 代表的患者像ではない。

イ. 高齢者では骨粗鬆症を背景に転倒など軽微な外力で生じやすい。

ウ. 高齢者に多い。

エ. 局所が異なる。

### 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「乳児にだけ起こる」に関する内容で、今回の「骨粗鬆症のある高齢者」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「骨粗鬆症のある高齢者」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「健康な若年者にしか起こらない」に関する内容で、今回の「骨粗鬆症のある高齢者」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「手指外傷患者にだけ起こる」に関する内容で、今回の「骨粗鬆症のある高齢者」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「骨粗鬆症のある高齢者」が適切である。根拠は、高齢者では骨粗鬆症を背景に転倒など軽微な外力で生じやすい。

### JS04-PDF-014

4-1 骨盤・股 > 大腿骨近位部 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：大腿骨近位部・症例から大腿骨近位部骨折を疑う】実習生が「舟状骨骨折」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 手関節の骨折である。

イ. 高齢者の転倒後の股関節痛と歩行困難は大腿骨頸部・転子部骨折を疑う重要な組合せである。

ウ. 肩の病変である。

エ. 小児の肘外傷である。

### 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「舟状骨骨折」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「大腿骨近位部骨折」に関する内容で、今回の誤判断「舟状骨骨折」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「肩腱板断裂」に関する内容で、今回の誤判断「舟状骨骨折」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「肘内障」に関する内容で、今回の誤判断「舟状骨骨折」の理由ではない。

総合解説：「舟状骨骨折」は不適切である。理由は、手関節の骨折である。この論点での適切な判断は「大腿骨近位部骨折」である。

### JS04-PDF-015

4-1 骨盤・股 > 大腿骨近位部 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：大腿骨近位部・大腿骨近位部骨折の変形を理解する】「短縮と外旋位」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 肩関節脱臼の所見である。
- イ. Colles骨折の所見である。
- ウ. 橈骨神経障害でみられる。
- エ. 転位骨折では患肢が短縮し外旋位をとることがある。

### 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「肩峰突出」に関する内容で、今回の「短縮と外旋位」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「手関節フォーク状変形」に関する内容で、今回の「短縮と外旋位」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「上肢の下垂手」に関する内容で、今回の「短縮と外旋位」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「短縮と外旋位」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「短縮と外旋位」が適切である。根拠は、転位骨折では患肢が短縮し外旋位をとることがある。

### JS04-PDF-016

4-1 骨盤・股 > 大腿骨近位部 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：大腿骨近位部・大腿骨頸部骨折の血行障害を理解する】実習生が「股関節が神経だけで支えられているため」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨頭壊死の説明にならない。
- イ. 正常では血流がある。
- ウ. 関節包内骨折では大腿骨頭への血流障害が生じ、骨頭壊死の原因となり得る。
- エ. 感染は必発ではない。

### 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「股関節が神経だけで支えられているため」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「大腿骨頭には元々血流がないため」に関する内容で、今回の誤判断「股関節が神経だけで支えられているため」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「骨頭への血流が骨折で障害されることがあるため」に関する内容で、今回の誤判断「股関節が神経だけで支えられているため」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「骨折すると必ず感染するため」に関する内容で、今回の誤判断「股関節が神経だけで支えられているため」の理由ではない。

総合解説：「股関節が神経だけで支えられているため」は不適切である。理由は、骨頭壊死の説明にならない。この論点での適切な判断は「骨頭への血流が骨折で障害されることがあるため」である。

### JS04-PDF-017

4-1 骨盤・股 > 大腿骨近位部 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：大腿骨近位部・大腿骨頸部骨折の癒合特性を理解する】「関節包内で骨膜性仮骨形成が乏しく、血流条件も不利なことがあるため」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 頸部の多くは関節包内に位置する。
- イ. 神経断裂は必発ではない。
- ウ. 通常は閉鎖性である。
- エ. 頸部骨折では癒合条件が不利で偽関節リスクがある。

### 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「大腿骨頸部は関節外にしか存在しないため」に関する内容で、今回の「関節包内で骨膜性仮骨形成が乏しく、血流条件も不利なことがあるため」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「必ず神経断裂を伴うため」に関する内容で、今回の「関節包内で骨膜性仮骨形成が乏しく、血流条件も不利なことがあるため」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「骨折部が必ず開放創になるため」に関する内容で、今回の「関節包内で骨膜性仮骨形成が乏しく、血流条件も不利なことがあるため」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「関節包内で骨膜性仮骨形成が乏しく、血流条件も不利なことがあるため」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「関節包内で骨膜性仮骨形成が乏しく、血流条件も不利なことがあるため」が適切である。根拠は、頸部骨折では癒合条件が不利で偽関節リスクがある。

### JS04-PDF-018

4-1 骨盤・股 > 大腿骨近位部 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：大腿骨近位部・大腿骨頸部と転子部骨折を区別する】実習生が「転子部骨折は必ず骨頭壊死を起こす」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨頭壊死は頸部骨折でより問題となる。
- イ. 位置が異なる。
- ウ. 偽関節等が問題となる。
- エ. 転子部は血流が比較的豊富な海綿骨部で、頸部骨折より癒合しやすい。

### 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「転子部骨折は必ず骨頭壊死を起こす」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「両者は解剖学的に同じ部位である」に関する内容で、今回の誤判断「転子部骨折は必ず骨頭壊死を起こす」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「頸部骨折は必ず自然治癒する」に関する内容で、今回の誤判断「転子部骨折は必ず骨頭壊死を起こす」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「転子部骨折は関節包外で、頸部骨折より骨癒合しやすい傾向がある」に関する内容で、今回の誤判断「転子部骨折は必ず骨頭壊死を起こす」の理由ではない。

総合解説：「転子部骨折は必ず骨頭壊死を起こす」は不適切である。理由は、骨頭壊死は頸部骨折でより問題となる。この論点での適切な判断は「転子部骨折は関節包外で、頸部骨折より骨癒合しやすい傾向がある」である。

## JS04-PDF-019

4-1 骨盤・股 > 大腿骨近位部 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：大腿骨近位部・大腿骨近位部骨折の安全な初期対応を理解する】「転位を増大させ疼痛・合併症を悪化させる可能性があるため」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨折がある状態での無理な荷重は転位や疼痛を悪化させ得る。
- イ. 直接関係しない。
- ウ. 歩行で治癒が即時完成するわけではない。
- エ. 局所が異なる。

## 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「転位を増大させ疼痛・合併症を悪化させる可能性があるため」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「視力が低下するため」に関する内容で、今回の「転位を増大させ疼痛・合併症を悪化させる可能性があるため」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「骨癒合が速まりすぎるため」に関する内容で、今回の「転位を増大させ疼痛・合併症を悪化させる可能性があるため」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「必ず肩関節脱臼が起きるため」に関する内容で、今回の「転位を増大させ疼痛・合併症を悪化させる可能性があるため」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「転位を増大させ疼痛・合併症を悪化させる可能性があるため」が適切である。根拠は、骨折がある状態での無理な荷重は転位や疼痛を悪化させ得る。

## JS04-PDF-020

4-1 骨盤・股 > 大腿骨近位部 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：大腿骨近位部・潜在性大腿骨頸部骨折を見逃さない】実習生が「股関節所見を無視する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 臨床所見との整合が重要である。
- イ. 潜在性骨折があり得る。
- ウ. 転位を悪化させる危険がある。
- エ. 非転位骨折などでは初期X線で明瞭でないことがあり、症状が強ければ追加評価が必要である。

## 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「股関節所見を無視する」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「X線陰性なら直ちに骨折を完全否定する」に関する内容で、今回の誤判断「股関節所見を無視する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「全力歩行で確認する」に関する内容で、今回の誤判断「股関節所見を無視する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「潜在性骨折を考え、追加画像や再評価を行う」に関する内容で、今回の誤判断「股関節所見を無視する」の理由ではない。

総合解説：「股関節所見を無視する」は不適切である。理由は、臨床所見との整合が重要である。この論点での適切な判断は「潜在性骨折を考え、追加画像や再評価を行う」である。

### JS04-PDF-021

4-1 骨盤・股 > 大腿骨近位部 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：大腿骨近位部・大腿骨近位部骨折後の全身管理を理解する】「廃用、肺合併症、深部静脈血栓症など」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 主要な問題ではない。

イ. 高齢者では長期臥床に伴う全身合併症が予後に影響する。

ウ. 長期臥床の主要全身合併症ではない。

エ. 骨折後臥床の代表的合併症ではない。

### 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「耳垢増加だけ」に関する内容で、今回の「廃用、肺合併症、深部静脈血栓症など」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「廃用、肺合併症、深部静脈血栓症など」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「手指のばね指だけ」に関する内容で、今回の「廃用、肺合併症、深部静脈血栓症など」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「近視の進行だけ」に関する内容で、今回の「廃用、肺合併症、深部静脈血栓症など」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「廃用、肺合併症、深部静脈血栓症など」が適切である。根拠は、高齢者では長期臥床に伴う全身合併症が予後に影響する。

### JS04-PDF-022

4-1 骨盤・股 > 大腿骨近位部 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：大腿骨近位部・若年者の大腿骨頸部骨折の特徴を理解する】実習生が「必ず軽微な転倒だけで起こると考える」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 若年者では高エネルギー外傷が多い。

イ. 若年者の頸部骨折は大きな外力で生じることが多く、多発外傷を考慮する。

ウ. 若年者でも重要である。

エ. 多発外傷の可能性はある。

### 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「必ず軽微な転倒だけで起こると考える」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「高エネルギー外傷を想定し、他部位損傷も含めて評価する」に関する内容で、今回の誤判断「必ず軽微な転倒だけで起こると考える」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「骨頭血流は考慮しない」に関する内容で、今回の誤判断「必ず軽微な転倒だけで起こると考える」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「全身評価は不要とする」に関する内容で、今回の誤判断「必ず軽微な転倒だけで起こると考える」の理由ではない。

総合解説：「必ず軽微な転倒だけで起こると考える」は不適切である。理由は、若年者では高エネルギー外傷が多い。この論点での適切な判断は「高エネルギー外傷を想定し、他部位損傷も含めて評価する」である。

### JS04-PDF-023

4-1 骨盤・股 > 股関節脱臼 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：股関節脱臼・股関節脱臼の好発方向を理解する】「後方脱臼」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 寛骨臼骨折を伴う中心性転位は別に扱われる。
- イ. 後方より少ない。
- ウ. 一般的な最多型ではない。
- エ. 外傷性股関節脱臼では後方脱臼が最も多い。

### 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「中心性脱臼」に関する内容で、今回の「後方脱臼」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「前方脱臼」に関する内容で、今回の「後方脱臼」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「上方脱臼だけ」に関する内容で、今回の「後方脱臼」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「後方脱臼」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「後方脱臼」が適切である。根拠は、外傷性股関節脱臼では後方脱臼が最も多い。

### JS04-PDF-024

4-1 骨盤・股 > 股関節脱臼 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：股関節脱臼・股関節後方脱臼の受傷機転を理解する】実習生が「舟状骨骨折」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 手関節外傷である。
- イ. 小児肘外傷である。
- ウ. 局所が異なる。
- エ. 屈曲・内転位の大腿骨に前方から軸圧が加わると骨頭が後方へ脱臼しやすい。

### 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「舟状骨骨折」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「肘内障」に関する内容で、今回の誤判断「舟状骨骨折」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「肩関節前方脱臼」に関する内容で、今回の誤判断「舟状骨骨折」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「股関節後方脱臼」に関する内容で、今回の誤判断「舟状骨骨折」の理由ではない。

総合解説：「舟状骨骨折」は不適切である。理由は、手関節外傷である。この論点での適切な判断は「股関節後方脱臼」である。

## JS04-PDF-025

4-1 骨盤・股 > 股関節脱臼 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：股関節脱臼・後方脱臼の典型肢位を理解する】「短縮・内転・内旋位」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 股関節脱臼方向を示す特徴ではない。
- イ. 股関節局所変形ではない。
- ウ. 前方脱臼でみられやすい。
- エ. 後方脱臼では患肢短縮と内転内旋位が典型的である。

## 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「膝完全伸展位だけ」に関する内容で、今回の「短縮・内転・内旋位」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「足関節背屈位だけ」に関する内容で、今回の「短縮・内転・内旋位」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「外転・外旋位だけ」に関する内容で、今回の「短縮・内転・内旋位」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「短縮・内転・内旋位」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「短縮・内転・内旋位」が適切である。根拠は、後方脱臼では患肢短縮と内転内旋位が典型的である。

## JS04-PDF-026

4-1 骨盤・股 > 股関節脱臼 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：股関節脱臼・股関節脱臼の神経合併症を理解する】実習生が「正中神経」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 上肢の神経である これは「正中神経」に関する説明である。
- イ. 肩関節周囲の神経である。
- ウ. 骨頭の後方転位や外傷により坐骨神経が障害されることがある。
- エ. 上肢の神経である これは「橈骨神経」に関する説明である。

## 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「正中神経」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「腋窩神経」に関する内容で、今回の誤判断「正中神経」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「坐骨神経」に関する内容で、今回の誤判断「正中神経」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「橈骨神経」に関する内容で、今回の誤判断「正中神経」の理由ではない。

総合解説：「正中神経」は不適切である。理由は、上肢の神経である これは「正中神経」に関する説明である。この論点での適切な判断は「坐骨神経」である。

### JS04-PDF-027

4-1 骨盤・股 > 股関節脱臼 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：股関節脱臼・股関節脱臼の緊急整復の意義を理解する】「大腿骨頭の血流障害による骨頭壊死リスクを減らすため」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 外傷性脱臼は緊急対応を要する。
- イ. 逆に血流障害が問題となる。
- ウ. 整復前後に必要である。
- エ. 脱臼時間が長いほど骨頭血流障害のリスクが高まるため、緊急整復が重要である。

### 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「脱臼は自然に必ず整復されるため」に関する内容で、今回の「大腿骨頭の血流障害による骨頭壊死リスクを減らすため」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「長時間脱臼させるほど骨頭血流が増えるため」に関する内容で、今回の「大腿骨頭の血流障害による骨頭壊死リスクを減らすため」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「神経血管評価が不要になるため」に関する内容で、今回の「大腿骨頭の血流障害による骨頭壊死リスクを減らすため」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「大腿骨頭の血流障害による骨頭壊死リスクを減らすため」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「大腿骨頭の血流障害による骨頭壊死リスクを減らすため」が適切である。根拠は、脱臼時間が長いほど骨頭血流障害のリスクが高まるため、緊急整復が重要である。

### JS04-PDF-028

4-1 骨盤・股 > 股関節脱臼 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：股関節脱臼・股関節脱臼の骨折合併を理解する】実習生が「骨折合併は脱臼治療に影響しないから」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. X線・CT等で評価する。
- イ. 後壁骨折などを伴うと整復後も不安定性や関節面障害が残ることがある。
- ウ. 治療方針・予後に大きく影響する。
- エ. 股関節の関節窩を構成する。

### 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「画像では寛骨臼を評価できないから」に関する内容で、今回の誤判断「骨折合併は脱臼治療に影響しないから」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「関節面の骨折片や整復後の安定性に影響するため」に関する内容で、今回の誤判断「骨折合併は脱臼治療に影響しないから」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「骨折合併は脱臼治療に影響しないから」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「寛骨臼は股関節と無関係だから」に関する内容で、今回の誤判断「骨折合併は脱臼治療に影響しないから」の理由ではない。

総合解説：「骨折合併は脱臼治療に影響しないから」は不適切である。理由は、治療方針・予後に大きく影響する。この論点での適切な判断は「関節面の骨折片や整復後の安定性に影響するため」である。

### JS04-PDF-029

4-1 骨盤・股 > 股関節脱臼 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：股関節脱臼・股関節脱臼の安全な初期対応を理解する】「骨折合併を評価せず現場で強い整復操作を反復する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 寛骨臼・大腿骨頭頸部骨折などの合併があり得るため、不用意な操作は危険である。
- イ. ではない。脱臼方向の推定に重要である。
- ウ. ではない。坐骨神経等の評価が必要である。
- エ. ではない。緊急性の高い損傷である。

### 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「骨折合併を評価せず現場で強い整復操作を反復する」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「受傷機転と患肢肢位を確認する」に関する内容で、今回の「骨折合併を評価せず現場で強い整復操作を反復する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「患肢の神経・血管所見を確認する」に関する内容で、今回の「骨折合併を評価せず現場で強い整復操作を反復する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「速やかに医療機関で画像・整復につなげる」に関する内容で、今回の「骨折合併を評価せず現場で強い整復操作を反復する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「骨折合併を評価せず現場で強い整復操作を反復する」が適切である。根拠は、寛骨臼・大腿骨頭頸部骨折などの合併があり得るため、不用意な操作は危険である。

### JS04-PDF-030

4-1 骨盤・股 > 股関節脱臼 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：股関節脱臼・股関節脱臼整復後の評価を理解する】実習生が「手指の感覚だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 患側下肢神経評価が必要である。
- イ. 局所整復評価にはならない。
- ウ. 股関節脱臼後評価とは無関係である。
- エ. 整復確認と合併骨折・神経障害の再評価が必要である。

### 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「手指の感覚だけ」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「視力と聴力だけ」に関する内容で、今回の誤判断「手指の感覚だけ」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「肩関節可動域だけ」に関する内容で、今回の誤判断「手指の感覚だけ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「整復位、骨折合併、坐骨神経機能」に関する内容で、今回の誤判断「手指の感覚だけ」の理由ではない。

総合解説：「手指の感覚だけ」は不適切である。理由は、患側下肢神経評価が必要である。この論点での適切な判断は「整復位、骨折合併、坐骨神経機能」である。

## JS04-PDF-031

4-2 膝 > 膝周囲骨折 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：膝周囲骨折・膝蓋骨の機能を理解する】「大腿四頭筋の力を効率よく膝伸展へ伝える」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 上肢の運動である。
- イ. 膝蓋骨の機能ではない。
- ウ. 膝蓋骨は膝伸展機構の一部として四頭筋のモーメントアームを高める。
- エ. 足関節の機能ではない。

## 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「前腕回内を行う」に関する内容で、今回の「大腿四頭筋の力を効率よく膝伸展へ伝える」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「股関節内転だけを行う」に関する内容で、今回の「大腿四頭筋の力を効率よく膝伸展へ伝える」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「大腿四頭筋の力を効率よく膝伸展へ伝える」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「足関節底屈を起こす」に関する内容で、今回の「大腿四頭筋の力を効率よく膝伸展へ伝える」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「大腿四頭筋の力を効率よく膝伸展へ伝える」が適切である。根拠は、膝蓋骨は膝伸展機構の一部として四頭筋のモーメントアームを高める。

## JS04-PDF-032

4-2 膝 > 膝周囲骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：膝周囲骨折・膝蓋骨骨折の受傷機転を理解する】実習生が「手関節を背屈する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 典型機序ではない。
- イ. 局所が異なる。
- ウ. 膝蓋骨への外力ではない。
- エ. 転倒や交通事故で膝前面を直接打つと膝蓋骨骨折を生じ得る。

## 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「足趾を屈曲するだけ」に関する内容で、今回の誤判断「手関節を背屈する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「肩を外旋する」に関する内容で、今回の誤判断「手関節を背屈する」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「手関節を背屈する」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「膝前面を直接打撲する」に関する内容で、今回の誤判断「手関節を背屈する」の理由ではない。

総合解説：「手関節を背屈する」は不適切である。理由は、膝蓋骨への外力ではない。この論点での適切な判断は「膝前面を直接打撲する」である。

## JS04-PDF-033

4-2 膝 > 膝周囲骨折 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：膝周囲骨折・膝蓋骨骨折と伸展機構を関連付ける】「膝の自動伸展困難」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 膝蓋骨とは無関係である。
- イ. 局所が異なる。
- ウ. 膝蓋骨と伸展機構の連続性が失われると自動伸展が困難になる。
- エ. 上肢機能である。

## 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「前腕回外困難」に関する内容で、今回の「膝の自動伸展困難」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「肩外転困難」に関する内容で、今回の「膝の自動伸展困難」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「膝の自動伸展困難」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「手関節背屈困難」に関する内容で、今回の「膝の自動伸展困難」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「膝の自動伸展困難」が適切である。根拠は、膝蓋骨と伸展機構の連続性が失われると自動伸展が困難になる。

## JS04-PDF-034

4-2 膝 > 膝周囲骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：膝周囲骨折・脛骨プラトー骨折の関節面評価を理解する】実習生が「関節面の段差は機能に影響しないから」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 脛骨近位関節面は体重を支えるため、整合性が重要である。
- イ. 膝関節面を構成する。
- ウ. 疼痛・腫脹を伴う。
- エ. 荷重・可動に影響する。

## 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「荷重関節面の陥没・段差が膝機能と将来の変形性変化に影響するため」に関する内容で、今回の誤判断「関節面の段差は機能に影響しないから」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「膝関節と無関係な骨折だから」に関する内容で、今回の誤判断「関節面の段差は機能に影響しないから」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「必ず無痛だから」に関する内容で、今回の誤判断「関節面の段差は機能に影響しないから」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「関節面の段差は機能に影響しないから」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「関節面の段差は機能に影響しないから」は不適切である。理由は、荷重・可動に影響する。この論点での適切な判断は「荷重関節面の陥没・段差が膝機能と将来の変形性変化に影響するため」である。

### JS04-PDF-035

4-2 膝 > 膝周囲骨折 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：膝周囲骨折・年齢別の脛骨プラトー骨折機序を理解する】「交通事故や高所転落などの高エネルギー外傷」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 典型的な受傷背景ではない。
- イ. 膝関節面への外力ではない。
- ウ. 若年者では大きな外力により生じることが多い。
- エ. 局所が異なる。

### 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「安静臥床だけ」に関する内容で、今回の「交通事故や高所転落などの高エネルギー外傷」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「手指の反復運動だけ」に関する内容で、今回の「交通事故や高所転落などの高エネルギー外傷」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「交通事故や高所転落などの高エネルギー外傷」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「肩関節脱臼だけ」に関する内容で、今回の「交通事故や高所転落などの高エネルギー外傷」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「交通事故や高所転落などの高エネルギー外傷」が適切である。根拠は、若年者では大きな外力により生じることが多い。

### JS04-PDF-036

4-2 膝 > 膝周囲骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：膝周囲骨折・高齢者の脛骨プラトー骨折を理解する】実習生が「関節面評価は不要である」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 重要な骨折である。
- イ. 高齢者では骨粗鬆症を背景に低エネルギーでも骨折し得る。
- ウ. 閉鎖性も多い。
- エ. 陥没・段差の評価が重要である。

### 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「高齢者には起こらない」に関する内容で、今回の誤判断「関節面評価は不要である」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「骨脆弱性があると比較的軽い転倒でも関節面陥没を伴うことがある」に関する内容で、今回の誤判断「関節面評価は不要である」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「必ず開放骨折となる」に関する内容で、今回の誤判断「関節面評価は不要である」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「関節面評価は不要である」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「関節面評価は不要である」は不適切である。理由は、陥没・段差の評価が重要である。この論点での適切な判断は「骨脆弱性があると比較的軽い転倒でも関節面陥没を伴うことがある」である。

## JS04-PDF-037

4-2 膝 > 膝周囲骨折 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：膝周囲骨折・大腿骨遠位部骨折の機能的問題を理解する】「膝関節近傍の関節面損傷と膝拘縮」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 局所が異なる これは「手指拘縮だけ」に関する説明である。

イ. 膝に近い骨折のため関節面整合性と可動域回復が重要である。

ウ. 下肢骨折の問題ではない。

エ. 局所が異なる これは「前腕回旋障害だけ」に関する説明である。

## 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「手指拘縮だけ」に関する内容で、今回の「膝関節近傍の関節面損傷と膝拘縮」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「膝関節近傍の関節面損傷と膝拘縮」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「肩関節脱臼だけ」に関する内容で、今回の「膝関節近傍の関節面損傷と膝拘縮」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「前腕回旋障害だけ」に関する内容で、今回の「膝関節近傍の関節面損傷と膝拘縮」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「膝関節近傍の関節面損傷と膝拘縮」が適切である。根拠は、膝に近い骨折のため関節面整合性と可動域回復が重要である。

## JS04-PDF-038

4-2 膝 > 膝周囲骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：膝周囲骨折・膝周囲骨折の血管合併症を理解する】実習生が「耳鳴りだけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 下肢循環所見ではない。

イ. 膝窩動脈障害による下腿虚血の警告所見である。

ウ. 膝窩動脈障害とは無関係である。

エ. 局所が異なる。

## 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「耳鳴りだけ」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「足部の冷感・蒼白・末梢脈拍低下」に関する内容で、今回の誤判断「耳鳴りだけ」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「手指のばね現象」に関する内容で、今回の誤判断「耳鳴りだけ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「肩部圧痛だけ」に関する内容で、今回の誤判断「耳鳴りだけ」の理由ではない。

総合解説：「耳鳴りだけ」は不適切である。理由は、下肢循環所見ではない。この論点での適切な判断は「足部の冷感・蒼白・末梢脈拍低下」である。

### JS04-PDF-039

4-2 膝 > 膝周囲骨折 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：膝周囲骨折・膝外側の神経合併症を理解する】「総腓骨神経」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 上肢の神経である これは「橈骨神経」に関する説明である。
- イ. 総腓骨神経は腓骨頭周囲を走行し、障害で下垂足や足背感覚障害を来す。
- ウ. 上肢の神経である これは「正中神経」に関する説明である。
- エ. 肩周囲の神経である。

### 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「橈骨神経」に関する内容で、今回の「総腓骨神経」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「総腓骨神経」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「正中神経」に関する内容で、今回の「総腓骨神経」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「腋窩神経」に関する内容で、今回の「総腓骨神経」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「総腓骨神経」が適切である。根拠は、総腓骨神経は腓骨頭周囲を走行し、障害で下垂足や足背感覚障害を来す。

### JS04-PDF-040

4-2 膝 > 膝周囲骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：膝周囲骨折・成長期の脛骨粗面剥離骨折を理解する】実習生が「舟状骨骨折」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 手根骨の骨折である。
- イ. 上肢の骨折である。
- ウ. 成長期では大腿四頭筋の強い牽引で脛骨粗面が剥離することがある。
- エ. 肩帯の骨折である。

### 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「舟状骨骨折」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「上腕骨骨幹部骨折」に関する内容で、今回の誤判断「舟状骨骨折」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「脛骨粗面剥離骨折」に関する内容で、今回の誤判断「舟状骨骨折」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「鎖骨骨折」に関する内容で、今回の誤判断「舟状骨骨折」の理由ではない。

総合解説：「舟状骨骨折」は不適切である。理由は、手根骨の骨折である。この論点での適切な判断は「脛骨粗面剥離骨折」である。

### JS04-PDF-041

4-2 膝 > 膝周囲骨折 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：膝周囲骨折・関節血腫から関節内骨折を考える】「関節内骨折を示唆する所見となる」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨折を示唆する所見である。
- イ. むしろ関節内骨折を考える。
- ウ. 骨髓脂肪が関節内へ流入すると脂肪血症を伴う関節血腫となり得る。
- エ. 感染とは別の機序である。

### 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「単純な靱帯損傷だけを示す」に関する内容で、今回の「関節内骨折を示唆する所見となる」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「骨折を否定する所見である」に関する内容で、今回の「関節内骨折を示唆する所見となる」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「関節内骨折を示唆する所見となる」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「必ず感染性関節炎を意味する」に関する内容で、今回の「関節内骨折を示唆する所見となる」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「関節内骨折を示唆する所見となる」が適切である。根拠は、骨髓脂肪が関節内へ流入すると脂肪血症を伴う関節血腫となり得る。

### JS04-PDF-042

4-2 膝 > 膝周囲骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：膝周囲骨折・膝伸展機構損傷を鑑別する】実習生が「肩外旋」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. いずれも伸展機構障害を起こし得るため、自動伸展・伸展ラグを評価する。
- イ. 局所が異なる。
- ウ. 上肢機能である。
- エ. 膝伸展機構の評価ではない。

### 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「膝の自動伸展」に関する内容で、今回の誤判断「肩外旋」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「前腕回内」に関する内容で、今回の誤判断「肩外旋」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「手関節尺屈」に関する内容で、今回の誤判断「肩外旋」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「肩外旋」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「肩外旋」は不適切である。理由は、膝伸展機構の評価ではない。この論点での適切な判断は「膝の自動伸展」である。

### JS04-PDF-043

4-2 膝 > 膝周囲骨折 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：膝周囲骨折・膝周囲骨折のコンパートメント症候群を認識する】「急性コンパートメント症候群」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 虚血性合併症を除外すべきである。
- イ. 上肢末梢神経障害である。
- ウ. 局所が異なる。
- エ. 増悪する疼痛・他動伸展痛・緊満感は重要な警告所見である。

### 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「単純な筋肉痛だけ」に関する内容で、今回の「急性コンパートメント症候群」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「手根管症候群」に関する内容で、今回の「急性コンパートメント症候群」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「肩関節周囲炎」に関する内容で、今回の「急性コンパートメント症候群」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「急性コンパートメント症候群」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「急性コンパートメント症候群」が適切である。根拠は、増悪する疼痛・他動伸展痛・緊満感は重要な警告所見である。

### JS04-PDF-044

4-2 膝 > 膝周囲骨折 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：膝周囲骨折・膝周囲骨折後の機能回復を理解する】実習生が「骨癒合前から最大荷重で深屈曲する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 拘縮を助長する。
- イ. 再転位や関節面損傷を悪化させる。
- ウ. 膝周囲骨折は拘縮しやすく、治癒段階に応じた可動域・筋力回復が重要である。
- エ. 負荷調整が必要である。

### 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「全例で数か月完全不動にする」に関する内容で、今回の誤判断「骨癒合前から最大荷重で深屈曲する」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「骨癒合前から最大荷重で深屈曲する」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「骨癒合・関節面安定性を守りつつ膝拘縮と筋萎縮を予防する」に関する内容で、今回の誤判断「骨癒合前から最大荷重で深屈曲する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「疼痛・腫脹を無視して運動量を増やす」に関する内容で、今回の誤判断「骨癒合前から最大荷重で深屈曲する」の理由ではない。

総合解説：「骨癒合前から最大荷重で深屈曲する」は不適切である。理由は、再転位や関節面損傷を悪化させる。この論点での適切な判断は「骨癒合・関節面安定性を守りつつ膝拘縮と筋萎縮を予防する」である。

### JS04-PDF-045

4-2 膝 > 半月板 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：半月板・半月板の機能を理解する】「荷重分散と衝撃吸収、関節安定性への寄与」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 筋ではない。

イ. 膝内の線維軟骨組織である。

ウ. 半月板は膝関節面の適合性を高め、荷重分散や衝撃吸収に関与する。

エ. 局所が異なる。

### 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「膝伸展を能動的に起こす」に関する内容で、今回の「荷重分散と衝撃吸収、関節安定性への寄与」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「股関節外転だけを制御する」に関する内容で、今回の「荷重分散と衝撃吸収、関節安定性への寄与」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「荷重分散と衝撃吸収、関節安定性への寄与」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「足関節底屈を起こす」に関する内容で、今回の「荷重分散と衝撃吸収、関節安定性への寄与」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「荷重分散と衝撃吸収、関節安定性への寄与」が適切である。根拠は、半月板は膝関節面の適合性を高め、荷重分散や衝撃吸収に関与する。

### JS04-PDF-046

4-2 膝 > 半月板 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：半月板・半月板損傷の受傷機転を理解する】実習生が「足趾屈曲だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 膝への負荷ではない。

イ. 半月板損傷の典型機序ではない。

ウ. 荷重下の膝回旋で半月板が挟まれ損傷することがある。

エ. 局所が異なる。

### 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「手関節背屈だけ」に関する内容で、今回の誤判断「足趾屈曲だけ」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「足趾屈曲だけ」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「膝屈曲位での回旋・捻転」に関する内容で、今回の誤判断「足趾屈曲だけ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「肩関節外転だけ」に関する内容で、今回の誤判断「足趾屈曲だけ」の理由ではない。

総合解説：「足趾屈曲だけ」は不適切である。理由は、半月板損傷の典型機序ではない。この論点での適切な判断は「膝屈曲位での回旋・捻転」である。

## JS04-PDF-047

4-2 膝 > 半月板 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：半月板・半月板損傷の症状を理解する】「関節裂隙部痛や引っかかり感」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 橈骨神経麻痺でみられる。
- イ. 半月板損傷では関節裂隙部の疼痛、クリック、引っかかりなどがみられる。
- ウ. 肩脱臼の所見である。
- エ. 膝半月板の典型症状ではない。

## 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「下垂手」に関する内容で、今回の「関節裂隙部痛や引っかかり感」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「関節裂隙部痛や引っかかり感」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「肩峰突出」に関する内容で、今回の「関節裂隙部痛や引っかかり感」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「手指しびれだけ」に関する内容で、今回の「関節裂隙部痛や引っかかり感」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「関節裂隙部痛や引っかかり感」が適切である。根拠は、半月板損傷では関節裂隙部の疼痛、クリック、引っかかりなどがみられる。

## JS04-PDF-048

4-2 膝 > 半月板 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：半月板・半月板損傷のロッキング機序を理解する】実習生が「必ず神経麻痺だけで起こる」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. バケツ柄断裂などでは断裂片が関節内に介在してロッキングを生じる。
- イ. 機械的ブロックが重要である。
- ウ. 代表的症状の一つである。
- エ. 局所が異なる。

## 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「断裂片が関節内で挟まり機械的に運動を妨げている可能性がある」に関する内容で、今回の誤判断「必ず神経麻痺だけで起こる」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「必ず神経麻痺だけで起こる」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「半月板損傷ではロッキングは起こらない」に関する内容で、今回の誤判断「必ず神経麻痺だけで起こる」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「足関節捻挫の典型所見である」に関する内容で、今回の誤判断「必ず神経麻痺だけで起こる」の理由ではない。

総合解説：「必ず神経麻痺だけで起こる」は不適切である。理由は、機械的ブロックが重要である。この論点での適切な判断は「断裂片が関節内で挟まり機械的に運動を妨げている可能性がある」である。

## JS04-PDF-049

4-2 膝 > 半月板 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：半月板・半月板損傷の画像評価を理解する】「MRI」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. MRIは半月板・靱帯・軟骨など膝軟部組織の評価に有用である。

イ. 膝半月板評価の標準ではない。

ウ. 膝半月板を評価できない。

エ. 局所が異なる。

## 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「MRI」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「腹部超音波だけ」に関する内容で、今回の「MRI」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「胸部X線だけ」に関する内容で、今回の「MRI」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「頭部CTだけ」に関する内容で、今回の「MRI」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「MRI」が適切である。根拠は、MRIは半月板・靱帯・軟骨など膝軟部組織の評価に有用である。

## JS04-PDF-050

4-2 膝 > 半月板 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：半月板・半月板損傷の徒手検査を理解する】実習生が「Thompsonテスト」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. ドケルバン病の評価である。

イ. 膝を屈伸・回旋させ関節裂隙痛やクリックを誘発する代表的半月板テストである。

ウ. アキレス腱断裂の評価である。

エ. 主に前十字靱帯評価である。

## 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「Finkelsteinテスト」に関する内容で、今回の誤判断「Thompsonテスト」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「McMurrayテスト」に関する内容で、今回の誤判断「Thompsonテスト」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「Thompsonテスト」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「Lachmanテスト」に関する内容で、今回の誤判断「Thompsonテスト」の理由ではない。

総合解説：「Thompsonテスト」は不適切である。理由は、アキレス腱断裂の評価である。この論点での適切な判断は「McMurrayテスト」である。

### JS04-PDF-051

4-2 膝 > 半月板 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：半月板・半月板と靱帯の複合損傷を理解する】「膝捻転外傷では複合損傷として併存することがある」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 併存し得る。
- イ. 複合損傷は珍しくない。
- ウ. いずれも膝関節機能に関係する。
- エ. ACL損傷時に半月板・軟骨損傷を伴うことがある。

### 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「半月板損傷があればACLは必ず正常である」に関する内容で、今回の「膝捻転外傷では複合損傷として併存することがある」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「両者は同時に起こらない」に関する内容で、今回の「膝捻転外傷では複合損傷として併存することがある」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「半月板は膝靱帯と無関係な部位にある」に関する内容で、今回の「膝捻転外傷では複合損傷として併存することがある」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「膝捻転外傷では複合損傷として併存することがある」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「膝捻転外傷では複合損傷として併存することがある」が適切である。根拠は、ACL損傷時に半月板・軟骨損傷を伴うことがある。

### JS04-PDF-052

4-2 膝 > 半月板 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：半月板・変性半月板損傷を理解する】実習生が「外傷歴がなければ半月板を完全に除外する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 変性損傷は明確な外傷がなくても生じる。
- イ. 多様な病態がある。
- ウ. 中高年の変性損傷もある。
- エ. 加齢性変性を背景に軽微な動作でも半月板損傷が症状化することがある。

### 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「外傷歴がなければ半月板を完全に除外する」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「膝痛は全て骨折と考える」に関する内容で、今回の誤判断「外傷歴がなければ半月板を完全に除外する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「半月板損傷は若年スポーツ選手にしか起こらない」に関する内容で、今回の誤判断「外傷歴がなければ半月板を完全に除外する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「変性半月板損傷も考慮する」に関する内容で、今回の誤判断「外傷歴がなければ半月板を完全に除外する」の理由ではない。

総合解説：「外傷歴がなければ半月板を完全に除外する」は不適切である。理由は、変性損傷は明確な外傷がなくても生じる。この論点での適切な判断は「変性半月板損傷も考慮する」である。

## JS04-PDF-053

4-2 膝 > 半月板 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：半月板・半月板の血行と治癒を理解する】「辺縁部は血流が比較的豊富だから」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 辺縁部には血流がある。
- イ. 半月板外周部には血管が分布し、中央部より修復能が高い。
- ウ. 半月板は線維軟骨である。
- エ. 中央部は血行が乏しい。

## 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「半月板全体に血流が全くないから」に関する内容で、今回の「辺縁部は血流が比較的豊富だから」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「辺縁部は血流が比較的豊富だから」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「辺縁部は骨組織だから」に関する内容で、今回の「辺縁部は血流が比較的豊富だから」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「中央部だけに豊富な血管があるから」に関する内容で、今回の「辺縁部は血流が比較的豊富だから」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「辺縁部は血流が比較的豊富だから」が適切である。根拠は、半月板外周部には血管が分布し、中央部より修復能が高い。

## JS04-PDF-054

4-2 膝 > 半月板 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：半月板・半月板損傷の治療原則を理解する】実習生が「全例で長期間完全固定する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 複合損傷を考慮する。
- イ. 拘縮・筋力低下を招く。
- ウ. 症状を悪化させる。
- エ. ロッキングや修復可能性などを踏まえ治療法を選択し、筋力・可動域を回復する。

## 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「靱帯損傷の合併を評価しない」に関する内容で、今回の誤判断「全例で長期間完全固定する」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「全例で長期間完全固定する」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「疼痛があっても最大捻転動作を反復する」に関する内容で、今回の誤判断「全例で長期間完全固定する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「損傷型・症状・不安定性を評価し、保存療法または手術後に段階的機能回復を行う」に関する内容で、今回の誤判断「全例で長期間完全固定する」の理由ではない。

総合解説：「全例で長期間完全固定する」は不適切である。理由は、拘縮・筋力低下を招く。この論点での適切な判断は「損傷型・症状・不安定性を評価し、保存療法または手術後に段階的機能回復を行う」である。

## JS04-PDF-055

4-2 膝 > 靱帯 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：靱帯・ACLの機能を理解する】「脛骨の前方移動と過度な回旋を制動する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 局所が異なる。

イ. ACLは脛骨前方移動や回旋不安定性を抑える。

ウ. 膝靱帯ではない。

エ. 後方移動制動はPCLが中心である。

## 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「肩外旋だけを制動する」に関する内容で、今回の「脛骨の前方移動と過度な回旋を制動する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「脛骨の前方移動と過度な回旋を制動する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「足関節内反だけを制動する」に関する内容で、今回の「脛骨の前方移動と過度な回旋を制動する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「脛骨の後方移動だけを制動する」に関する内容で、今回の「脛骨の前方移動と過度な回旋を制動する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「脛骨の前方移動と過度な回旋を制動する」が適切である。根拠は、ACLは脛骨前方移動や回旋不安定性を抑える。

## JS04-PDF-056

4-2 膝 > 靱帯 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：靱帯・ACL損傷の受傷機転を理解する】実習生が「前距腓靱帯」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 肘の靱帯である。

イ. 足関節外側靱帯である。

ウ. 肩の靱帯である。

エ. ACL損傷は非接触性の繰り返し・着地で生じ、関節血腫を伴うことが多い。

## 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「肘内側側副靱帯」に関する内容で、今回の誤判断「前距腓靱帯」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「前距腓靱帯」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「肩鎖靱帯」に関する内容で、今回の誤判断「前距腓靱帯」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「前十字靱帯」に関する内容で、今回の誤判断「前距腓靱帯」の理由ではない。

総合解説：「前距腓靱帯」は不適切である。理由は、足関節外側靱帯である。この論点での適切な判断は「前十字靱帯」である。

### JS04-PDF-057

4-2 膝 > 靱帯 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：靱帯・ACLの徒手検査を理解する】「Lachmanテスト」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 主に内側側副靱帯の不安定性を評価する。
- イ. 主に半月板損傷を評価する。
- ウ. 主に後十字靱帯の後方不安定性を評価する。
- エ. ACLの前方不安定性評価に用いられる代表的検査である。

### 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「外反ストレステスト」に関する内容で、今回の「Lachmanテスト」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「McMurrayテスト」に関する内容で、今回の「Lachmanテスト」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「後方引き出しテスト」に関する内容で、今回の「Lachmanテスト」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「Lachmanテスト」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「Lachmanテスト」が適切である。根拠は、ACLの前方不安定性評価に用いられる代表的検査である。

### JS04-PDF-058

4-2 膝 > 靱帯 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：靱帯・PCL損傷の受傷機転を理解する】実習生が「足趾屈曲だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 肩の動作である。
- イ. 膝PCLへの外力ではない。
- ウ. ダッシュボード損傷などで脛骨が後方へ押されPCLが損傷する。
- エ. PCL損傷の典型機序ではない。

### 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「肩外転外旋だけ」に関する内容で、今回の誤判断「足趾屈曲だけ」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「手関節背屈だけ」に関する内容で、今回の誤判断「足趾屈曲だけ」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「膝屈曲位で脛骨近位部に前方から強い力が加わる」に関する内容で、今回の誤判断「足趾屈曲だけ」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「足趾屈曲だけ」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「足趾屈曲だけ」は不適切である。理由は、PCL損傷の典型機序ではない。この論点での適切な判断は「膝屈曲位で脛骨近位部に前方から強い力が加わる」である。

### JS04-PDF-059

4-2 膝 > 靱帯 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：靱帯・MCL損傷の外力方向を理解する】「膝外側からの外反ストレス」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. LCL損傷を起こしやすい。
- イ. MCLへの典型外力ではない。
- ウ. 外側からの力で膝が外反するとMCLに張力がかかる。
- エ. 局所が異なる。

### 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「膝内側からの内反ストレス」に関する内容で、今回の「膝外側からの外反ストレス」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「足関節底屈だけ」に関する内容で、今回の「膝外側からの外反ストレス」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「膝外側からの外反ストレス」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「肩の内旋だけ」に関する内容で、今回の「膝外側からの外反ストレス」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「膝外側からの外反ストレス」が適切である。根拠は、外側からの力で膝が外反するとMCLに張力がかかる。

### JS04-PDF-060

4-2 膝 > 靱帯 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：靱帯・LCL損傷の外力方向を理解する】実習生が「肘伸展だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 内側からの力で膝が内反するとLCLなど外側支持機構へ張力がかかる。
- イ. 膝外側靱帯の損傷機序ではない。
- ウ. MCL損傷で典型的である。
- エ. 局所が異なる。

### 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「膝内側からの内反ストレス」に関する内容で、今回の誤判断「肘伸展だけ」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「肘伸展だけ」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「膝外側からの外反ストレス」に関する内容で、今回の誤判断「肘伸展だけ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「手関節尺屈だけ」に関する内容で、今回の誤判断「肘伸展だけ」の理由ではない。

総合解説：「肘伸展だけ」は不適切である。理由は、膝外側靱帯の損傷機序ではない。この論点での適切な判断は「膝内側からの内反ストレス」である。

### JS04-PDF-061

4-2 膝 > 靱帯 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：靱帯・重度膝靱帯損傷の神経血管合併症を理解する】「膝窩動脈と総腓骨神経を含む神経血管評価」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 重度膝外傷評価にはならない。
- イ. 患側下肢を評価する。
- ウ. 重度膝外傷では膝窩動脈損傷が四肢虚血につながるため緊急評価が必要である。
- エ. 下肢神経血管評価にならない。

### 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「肩関節可動域だけ」に関する内容で、今回の「膝窩動脈と総腓骨神経を含む神経血管評価」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「手指感覚だけ」に関する内容で、今回の「膝窩動脈と総腓骨神経を含む神経血管評価」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「膝窩動脈と総腓骨神経を含む神経血管評価」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「視力だけ」に関する内容で、今回の「膝窩動脈と総腓骨神経を含む神経血管評価」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「膝窩動脈と総腓骨神経を含む神経血管評価」が適切である。根拠は、重度膝外傷では膝窩動脈損傷が四肢虚血につながるため緊急評価が必要である。

### JS04-PDF-062

4-2 膝 > 靱帯 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：靱帯・膝靱帯損傷の復帰判断を理解する】実習生が「歩ければ靱帯は完全治癒したと判断する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 日常生活が可能でも靱帯不安定性が残ることがあり、競技復帰には機能評価が必要である。
- イ. 損傷程度の把握に有用である。
- ウ. 高度損傷でも日常歩行が可能になることがある。
- エ. 再受傷リスクが高い。

### 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「疼痛だけでなく不安定性、筋力、可動域、競技動作を総合評価する」に関する内容で、今回の誤判断「歩ければ靱帯は完全治癒したと判断する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「MRIや徒手所見は一切考慮しない」に関する内容で、今回の誤判断「歩ければ靱帯は完全治癒したと判断する」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「歩ければ靱帯は完全治癒したと判断する」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「不安定感を無視して全力復帰する」に関する内容で、今回の誤判断「歩ければ靱帯は完全治癒したと判断する」の理由ではない。

総合解説：「歩ければ靱帯は完全治癒したと判断する」は不適切である。理由は、高度損傷でも日常歩行が可能になることがある。この論点での適切な判断は「疼痛だけでなく不安定性、筋力、可動域、競技動作を総合評価する」である。

## JS04-PDF-063

4-3 下腿・足関節 > 下腿骨折 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：下腿骨折・下腿の基本解剖を理解する】「脛骨と腓骨」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 下腿は内側の脛骨と外側の腓骨から構成される。

イ. 前腕骨である。

ウ. 大腿・膝周囲の骨である。

エ. 上肢の骨である。

## 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「脛骨と腓骨」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「橈骨と尺骨」に関する内容で、今回の「脛骨と腓骨」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「大腿骨と膝蓋骨」に関する内容で、今回の「脛骨と腓骨」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「上腕骨と尺骨」に関する内容で、今回の「脛骨と腓骨」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「脛骨と腓骨」が適切である。根拠は、下腿は内側の脛骨と外側の腓骨から構成される。

## JS04-PDF-064

4-3 下腿・足関節 > 下腿骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：下腿骨折・脛骨骨幹部骨折の開放骨折リスクを理解する】実習生が「下腿には皮膚が存在しないため」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 脛骨は皮下直下に触れやすく、外傷時に皮膚・軟部組織損傷を伴いやすい。

イ. 前内側面は表在性である。

ウ. 皮膚・軟部組織に覆われている。

エ. 主な荷重骨は脛骨である。

## 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「脛骨前内側面は皮下に近く軟部組織被覆が薄いため」に関する内容で、今回の誤判断「下腿には皮膚が存在しないため」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「脛骨が体内で最も深い位置にあるため」に関する内容で、今回の誤判断「下腿には皮膚が存在しないため」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「下腿には皮膚が存在しないため」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「腓骨だけが体重を支えるため」に関する内容で、今回の誤判断「下腿には皮膚が存在しないため」の理由ではない。

総合解説：「下腿には皮膚が存在しないため」は不適切である。理由は、皮膚・軟部組織に覆われている。この論点での適切な判断は「脛骨前内側面は皮下に近く軟部組織被覆が薄いため」である。

### JS04-PDF-065

4-3 下腿・足関節 > 下腿骨折 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：下腿骨折・下腿骨折のコンパートメント症候群を認識する】「急性コンパートメント症候群」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 小児肘外傷である。

イ. 強い疼痛、他動伸展痛、緊満腫脹は代表的な警告所見である。

ウ. 虚血性障害を除外する必要がある。

エ. 局所が異なる。

### 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「肘内障」に関する内容で、今回の「急性コンパートメント症候群」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「急性コンパートメント症候群」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「単純な筋肉痛だけ」に関する内容で、今回の「急性コンパートメント症候群」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「肩関節脱臼」に関する内容で、今回の「急性コンパートメント症候群」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「急性コンパートメント症候群」が適切である。根拠は、強い疼痛、他動伸展痛、緊満腫脹は代表的な警告所見である。

### JS04-PDF-066

4-3 下腿・足関節 > 下腿骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：下腿骨折・腓骨近位部と総腓骨神経の関係を理解する】実習生が「脛骨神経」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 下腿後面から足底側を支配し、腓骨頭周囲の代表的障害神経ではない。

イ. 大腿内側・股関節内転筋群に關与する神経である。

ウ. 総腓骨神経は腓骨頭・頸部周囲を表在性に走行する。

エ. 大腿前面・膝伸展に關与する神経である。

### 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「脛骨神経」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「閉鎖神経」に関する内容で、今回の誤判断「脛骨神経」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「総腓骨神経」に関する内容で、今回の誤判断「脛骨神経」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「大腿神経」に関する内容で、今回の誤判断「脛骨神経」の理由ではない。

総合解説：「脛骨神経」は不適切である。理由は、下腿後面から足底側を支配し、腓骨頭周囲の代表的障害神経ではない。この論点での適切な判断は「総腓骨神経」である。

### JS04-PDF-067

4-3 下腿・足関節 > 下腿骨折 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：下腿骨折・総腓骨神経障害の症状を理解する】「総腓骨神経障害」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 上肢の神経である。
- イ. 総腓骨神経障害では下垂足と足背感覚障害を来し得る。
- ウ. 股関節内転筋などに関与する。
- エ. 膝伸展や大腿前面感覚に関与する。

### 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「尺骨神経障害」に関する内容で、今回の「総腓骨神経障害」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「総腓骨神経障害」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「閉鎖神経障害」に関する内容で、今回の「総腓骨神経障害」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「大腿神経障害」に関する内容で、今回の「総腓骨神経障害」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「総腓骨神経障害」が適切である。根拠は、総腓骨神経障害では下垂足と足背感覚障害を来し得る。

### JS04-PDF-068

4-3 下腿・足関節 > 下腿骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：下腿骨折・脛骨疲労骨折の機序を理解する】実習生が「必ず交通事故で生じる」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 通常は閉鎖性である。
- イ. 好発部位の一つである。
- ウ. 疲労骨折は一回では骨折しない程度の外力が反復して生じる。
- エ. スポーツの反復負荷が多い。

### 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「必ず開放骨折となる」に関する内容で、今回の誤判断「必ず交通事故で生じる」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「脛骨には疲労骨折は起こらない」に関する内容で、今回の誤判断「必ず交通事故で生じる」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「反復する負荷の蓄積で、明らかな一回の大外傷がなくても生じる」に関する内容で、今回の誤判断「必ず交通事故で生じる」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「必ず交通事故で生じる」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「必ず交通事故で生じる」は不適切である。理由は、スポーツの反復負荷が多い。この論点での適切な判断は「反復する負荷の蓄積で、明らかな一回の大外傷がなくても生じる」である。

### JS04-PDF-069

4-3 下腿・足関節 > 下腿骨折 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：下腿骨折・症例から脛骨疲労骨折を疑う】「疲労骨折を考慮し、局所圧痛や画像評価を行う」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 疲労骨折を見逃す可能性がある。

イ. 鑑別に有用である。

ウ. 骨折進展の危険がある。

エ. 典型的な疲労骨折の経過であり、運動継続で悪化する可能性がある。

### 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「必ず単純な筋肉痛と決める」に関する内容で、今回の「疲労骨折を考慮し、局所圧痛や画像評価を行う」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「骨性圧痛は確認しない」に関する内容で、今回の「疲労骨折を考慮し、局所圧痛や画像評価を行う」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「痛みがあっても走行量を増やす」に関する内容で、今回の「疲労骨折を考慮し、局所圧痛や画像評価を行う」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「疲労骨折を考慮し、局所圧痛や画像評価を行う」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「疲労骨折を考慮し、局所圧痛や画像評価を行う」が適切である。根拠は、典型的な疲労骨折の経過であり、運動継続で悪化する可能性がある。

### JS04-PDF-070

4-3 下腿・足関節 > 下腿骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：下腿骨折・下腿骨折の神経血管評価を理解する】実習生が「手指感覚だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 神経血管障害と固定による変化を末梢で確認する。

イ. 下肢末梢評価にならない。

ウ. 局所が異なる。

エ. 患側下肢を評価すべきである。

### 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「足背動脈・後脛骨動脈、感覚、足趾・足関節運動の確認」に関する内容で、今回の誤判断「手指感覚だけ」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「視力だけ」に関する内容で、今回の誤判断「手指感覚だけ」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「肩関節可動域だけ」に関する内容で、今回の誤判断「手指感覚だけ」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「手指感覚だけ」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「手指感覚だけ」は不適切である。理由は、患側下肢を評価すべきである。この論点での適切な判断は「足背動脈・後脛骨動脈、感覚、足趾・足関節運動の確認」である。

### JS04-PDF-071

4-3 下腿・足関節 > 下腿骨折 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：下腿骨折・開放性下腿骨折の初期対応を理解する】「創を清潔に保護し、骨片を不用意に戻さず速やかに医療対応へつなげる」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 感染・組織損傷を悪化させる。
- イ. 出血・感染・転位悪化の危険がある。
- ウ. 血管損傷評価が重要である。
- エ. 感染と軟部組織損傷のリスクが高く、緊急の専門治療が必要である。

### 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「創内の骨片を素手で繰り返し押し戻す」に関する内容で、今回の「創を清潔に保護し、骨片を不用意に戻さず速やかに医療対応へつなげる」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「創を開放したまま歩行させる」に関する内容で、今回の「創を清潔に保護し、骨片を不用意に戻さず速やかに医療対応へつなげる」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「末梢循環を確認しない」に関する内容で、今回の「創を清潔に保護し、骨片を不用意に戻さず速やかに医療対応へつなげる」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「創を清潔に保護し、骨片を不用意に戻さず速やかに医療対応へつなげる」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「創を清潔に保護し、骨片を不用意に戻さず速やかに医療対応へつなげる」が適切である。根拠は、感染と軟部組織損傷のリスクが高く、緊急の専門治療が必要である。

### JS04-PDF-072

4-3 下腿・足関節 > 下腿骨折 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：下腿骨折・下腿骨変形と機能障害を理解する】実習生が「前腕回旋障害だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 局所が異なる。
- イ. 角状・回旋変形は膝・足関節への荷重を変え、歩行機能へ影響する。
- ウ. 上肢の機能である。
- エ. 骨変形と無関係である。

### 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「肩関節不安定性だけ」に関する内容で、今回の誤判断「前腕回旋障害だけ」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「下肢アライメント異常による荷重・歩行障害」に関する内容で、今回の誤判断「前腕回旋障害だけ」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「前腕回旋障害だけ」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「視力低下だけ」に関する内容で、今回の誤判断「前腕回旋障害だけ」の理由ではない。

総合解説：「前腕回旋障害だけ」は不適切である。理由は、上肢の機能である。この論点での適切な判断は「下肢アライメント異常による荷重・歩行障害」である。

## JS04-PDF-073

4-3 下腿・足関節 > 下腿骨折 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：下腿骨折・近位腓骨骨折と足関節損傷を関連付ける】「Maisonnette損傷」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 前腕の橈骨骨折と遠位橈尺関節損傷である。
- イ. 近位腓骨骨折と遠位脛腓靭帯・足関節内側支持組織損傷を伴うことがある。
- ウ. 前腕の尺骨骨折と橈骨頭脱臼である。
- エ. 母指中手骨基部骨折である。

## 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「Galeazzi損傷」に関する内容で、今回の「Maisonnette損傷」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「Maisonnette損傷」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「Monteggia損傷」に関する内容で、今回の「Maisonnette損傷」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「Bennett骨折」に関する内容で、今回の「Maisonnette損傷」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「Maisonnette損傷」が適切である。根拠は、近位腓骨骨折と遠位脛腓靭帯・足関節内側支持組織損傷を伴うことがある。

## JS04-PDF-074

4-3 下腿・足関節 > 下腿骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：下腿骨折・下腿骨折の荷重管理を理解する】実習生が「全例で永久に荷重禁止とする」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨折型や治療法によって荷重時期は異なる。
- イ. 不安定骨折では危険である。
- ウ. 重要な判断材料である。
- エ. 治癒後は機能回復が必要である。

## 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「骨癒合、固定性、疼痛、画像所見をもとに段階的に進める」に関する内容で、今回の誤判断「全例で永久に荷重禁止とする」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「受傷翌日から全例で全荷重する」に関する内容で、今回の誤判断「全例で永久に荷重禁止とする」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「疼痛や画像を一切考慮しない」に関する内容で、今回の誤判断「全例で永久に荷重禁止とする」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「全例で永久に荷重禁止とする」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「全例で永久に荷重禁止とする」は不適切である。理由は、治癒後は機能回復が必要である。この論点での適切な判断は「骨癒合、固定性、疼痛、画像所見をもとに段階的に進める」である。

## JS04-PDF-075

4-3 下腿・足関節 > 足関節捻挫 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：足関節捻挫・足関節外側靱帯の好発損傷を理解する】「前距腓靱帯」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 足関節内側の強靱な靱帯である。

イ. 肩鎖関節の靱帯である。

ウ. 膝関節の靱帯である。

エ. 内反捻挫では前距腓靱帯が最も損傷されやすい。

## 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「三角靱帯」に関する内容で、今回の「前距腓靱帯」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「肩鎖靱帯」に関する内容で、今回の「前距腓靱帯」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「後十字靱帯」に関する内容で、今回の「前距腓靱帯」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「前距腓靱帯」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「前距腓靱帯」が適切である。根拠は、内反捻挫では前距腓靱帯が最も損傷されやすい。

## JS04-PDF-076

4-3 下腿・足関節 > 足関節捻挫 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：足関節捻挫・足関節外側捻挫の受傷機転を理解する】実習生が「膝伸展だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 局所が異なる。

イ. 内反ストレスで外側靱帯群に張力が加わる。

ウ. 足関節外側靱帯への典型外力ではない。

エ. 上肢の運動である。

## 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「肩外転」に関する内容で、今回の誤判断「膝伸展だけ」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「足関節の内反」に関する内容で、今回の誤判断「膝伸展だけ」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「膝伸展だけ」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「手関節掌屈」に関する内容で、今回の誤判断「膝伸展だけ」の理由ではない。

総合解説：「膝伸展だけ」は不適切である。理由は、足関節外側靱帯への典型外力ではない。この論点での適切な判断は「足関節の内反」である。

## JS04-PDF-077

4-3 下腿・足関節 > 足関節捻挫 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：足関節捻挫・前距腓靱帯の局所解剖を理解する】「外果前下方」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 外果前下方が代表部位である。
- イ. 内側支持組織側である。
- ウ. 前距腓靱帯は外果前方から距骨へ走行する。
- エ. 膝の部位である。

## 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「腓骨頭後方だけ」に関する内容で、今回の「外果前下方」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「内果直上だけ」に関する内容で、今回の「外果前下方」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「外果前下方」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「膝蓋骨上縁」に関する内容で、今回の「外果前下方」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「外果前下方」が適切である。根拠は、前距腓靱帯は外果前方から距骨へ走行する。

## JS04-PDF-078

4-3 下腿・足関節 > 足関節捻挫 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：足関節捻挫・足関節前方引き出しテストを理解する】実習生が「アキレス腱断裂」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. Thompsonテストなどで評価する。
- イ. 局所が異なる。
- ウ. Lachmanテスト等で評価する。
- エ. 距骨の前方移動を評価し、前距腓靱帯損傷の参考とする。

## 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「アキレス腱断裂」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「股関節唇損傷」に関する内容で、今回の誤判断「アキレス腱断裂」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「膝前十字靱帯」に関する内容で、今回の誤判断「アキレス腱断裂」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「前距腓靱帯の不安定性」に関する内容で、今回の誤判断「アキレス腱断裂」の理由ではない。

総合解説：「アキレス腱断裂」は不適切である。理由は、Thompsonテストなどで評価する。この論点での適切な判断は「前距腓靱帯の不安定性」である。

## JS04-PDF-079

4-3 下腿・足関節 > 足関節捻挫 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：足関節捻挫・足関節外側靭帯の徒手評価を理解する】「踵腓靭帯を含む外側靭帯群」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 肩鎖関節の靭帯である。
- イ. 膝関節内靭帯である。
- ウ. 距骨傾斜で踵腓靭帯など外側支持機構の不安定性を評価する。
- エ. 膝の靭帯である。

## 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「肩鎖靭帯」に関する内容で、今回の「踵腓靭帯を含む外側靭帯群」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「前十字靭帯」に関する内容で、今回の「踵腓靭帯を含む外側靭帯群」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「踵腓靭帯を含む外側靭帯群」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「膝内側側副靭帯」に関する内容で、今回の「踵腓靭帯を含む外側靭帯群」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「踵腓靭帯を含む外側靭帯群」が適切である。根拠は、距骨傾斜で踵腓靭帯など外側支持機構の不安定性を評価する。

## JS04-PDF-080

4-3 下腿・足関節 > 足関節捻挫 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：足関節捻挫・足関節捻挫と骨折を鑑別する】実習生が「歩ければ骨折を絶対に否定する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 歩行可能な骨折もある。
- イ. 骨折鑑別に重要である。
- ウ. 捻挫と骨折は症状が重なるため、骨性圧痛・荷重機能を含め評価する。
- エ. 骨折でも腫脹する。

## 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「歩ければ骨折を絶対に否定する」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「骨性圧痛を調べない」に関する内容で、今回の誤判断「歩ければ骨折を絶対に否定する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「外果・内果や第5中足骨基部などの骨性圧痛と荷重能力を確認する」に関する内容で、今回の誤判断「歩ければ骨折を絶対に否定する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「腫脹があれば捻挫と確定する」に関する内容で、今回の誤判断「歩ければ骨折を絶対に否定する」の理由ではない。

総合解説：「歩ければ骨折を絶対に否定する」は不適切である。理由は、歩行可能な骨折もある。この論点での適切な判断は「外果・内果や第5中足骨基部などの骨性圧痛と荷重能力を確認する」である。

### JS04-PDF-081

4-3 下腿・足関節 > 足関節捻挫 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：足関節捻挫・遠位脛腓靭帯損傷を理解する】「足部外旋などにより遠位脛腓間へ開大力が加わる」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 足関節への外力ではない。
- イ. 典型機序ではない。
- ウ. 高位足関節捻挫では脛腓靭帯結合が損傷する。
- エ. 手指の運動である。

### 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「肩をすくめる」に関する内容で、今回の「足部外旋などにより遠位脛腓間へ開大力が加わる」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「膝蓋骨を軽く触るだけ」に関する内容で、今回の「足部外旋などにより遠位脛腓間へ開大力が加わる」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「足部外旋などにより遠位脛腓間へ開大力が加わる」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「指を強く屈曲する」に関する内容で、今回の「足部外旋などにより遠位脛腓間へ開大力が加わる」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「足部外旋などにより遠位脛腓間へ開大力が加わる」が適切である。根拠は、高位足関節捻挫では脛腓靭帯結合が損傷する。

### JS04-PDF-082

4-3 下腿・足関節 > 足関節捻挫 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：足関節捻挫・足関節捻挫の急性期管理を理解する】実習生が「疼痛が強いほどすぐ最大荷重する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 損傷を悪化させる。
- イ. 鑑別が必要である。
- ウ. 急性期は二次損傷を避け、症状を管理しながら適切な診断へつなげる。
- エ. 圧迫障害を見逃す。

### 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「疼痛が強いほどすぐ最大荷重する」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「骨折の可能性を一切考えない」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛が強いほどすぐ最大荷重する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「損傷程度を評価し、保護・圧迫・挙上などで腫脹と疼痛を管理する」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛が強いほどすぐ最大荷重する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「固定後の神経血管状態を確認しない」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛が強いほどすぐ最大荷重する」の理由ではない。

総合解説：「疼痛が強いほどすぐ最大荷重する」は不適切である。理由は、損傷を悪化させる。この論点での適切な判断は「損傷程度を評価し、保護・圧迫・挙上などで腫脹と疼痛を管理する」である。

## JS04-PDF-083

4-3 下腿・足関節 > 足関節捻挫 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：足関節捻挫・足関節捻挫の慢性不安定性を理解する】「慢性足関節不安定症」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 靱帯機能不全や固有感覚低下により反復捻挫・不安定感を生じることがある。

イ. 肩病変である。

ウ. 機能的不安定性が残っている可能性がある。

エ. 局所が異なる。

## 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「慢性足関節不安定症」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「肩腱板断裂である」に関する内容で、今回の「慢性足関節不安定症」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「治癒が完全なので評価不要」に関する内容で、今回の「慢性足関節不安定症」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「必ず骨盤骨折である」に関する内容で、今回の「慢性足関節不安定症」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「慢性足関節不安定症」が適切である。根拠は、靱帯機能不全や固有感覚低下により反復捻挫・不安定感を生じることがある。

## JS04-PDF-084

4-3 下腿・足関節 > 足関節捻挫 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：足関節捻挫・足関節捻挫の競技復帰を理解する】実習生が「片脚バランスを評価しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 慢性不安定性の判断に重要である。

イ. 機能的不安定性評価に重要である。

ウ. 再捻挫リスクが残ることがある。

エ. 痛みの消失だけではなく安定性・神経筋機能・競技動作まで確認する。

## 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「再発歴を無視する」に関する内容で、今回の誤判断「片脚バランスを評価しない」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「片脚バランスを評価しない」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「歩ければ直ちに全力復帰する」に関する内容で、今回の誤判断「片脚バランスを評価しない」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「疼痛、腫脹、可動域、筋力、バランス、競技動作を総合評価する」に関する内容で、今回の誤判断「片脚バランスを評価しない」の理由ではない。

総合解説：「片脚バランスを評価しない」は不適切である。理由は、機能的不安定性評価に重要である。この論点での適切な判断は「疼痛、腫脹、可動域、筋力、バランス、競技動作を総合評価する」である。

## JS04-PDF-085

4-3 下腿・足関節 > アキレス腱 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：アキレス腱・アキレス腱の解剖を理解する】「腓腹筋とヒラメ筋」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 股関節外転筋である。
- イ. 足関節背屈筋である。
- ウ. 下腿三頭筋の腓腹筋・ヒラメ筋がアキレス腱を形成し踵骨へ停止する。
- エ. 膝伸展筋群である。

## 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「中殿筋だけ」に関する内容で、今回の「腓腹筋とヒラメ筋」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「前脛骨筋だけ」に関する内容で、今回の「腓腹筋とヒラメ筋」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「腓腹筋とヒラメ筋」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「大腿四頭筋」に関する内容で、今回の「腓腹筋とヒラメ筋」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「腓腹筋とヒラメ筋」が適切である。根拠は、下腿三頭筋の腓腹筋・ヒラメ筋がアキレス腱を形成し踵骨へ停止する。

## JS04-PDF-086

4-3 下腿・足関節 > アキレス腱 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：アキレス腱・アキレス腱断裂の受傷機転を理解する】実習生が「肩を外転したとき」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 典型的機序ではない。
- イ. アキレス腱への負荷ではない。
- ウ. 局所が異なる。
- エ. スポーツ中の急な蹴り出し・踏み込みで断裂することが多い。

## 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「安静に座っているだけ」に関する内容で、今回の誤判断「肩を外転したとき」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「肩を外転したとき」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「手関節を背屈したとき」に関する内容で、今回の誤判断「肩を外転したとき」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「ダッシュやジャンプなどで急に強く踏み込んだとき」に関する内容で、今回の誤判断「肩を外転したとき」の理由ではない。

総合解説：「肩を外転したとき」は不適切である。理由は、アキレス腱への負荷ではない。この論点での適切な判断は「ダッシュやジャンプなどで急に強く踏み込んだとき」である。

## JS04-PDF-087

4-3 下腿・足関節 > アキレス腱 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：アキレス腱・典型症状からアキレス腱断裂を疑う】「アキレス腱断裂」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 局所が異なる。
- イ. 手関節の骨折である。
- ウ. 膝関節内の損傷である。
- エ. 断裂時に『後ろから蹴られた』ような感覚を訴え、蹴り出し・つま先立ちが困難になることがある。

## 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「肩関節脱臼」に関する内容で、今回の「アキレス腱断裂」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「橈骨遠位端骨折」に関する内容で、今回の「アキレス腱断裂」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「半月板損傷」に関する内容で、今回の「アキレス腱断裂」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「アキレス腱断裂」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「アキレス腱断裂」が適切である。根拠は、断裂時に『後ろから蹴られた』ような感覚を訴え、蹴り出し・つま先立ちが困難になることがある。

## JS04-PDF-088

4-3 下腿・足関節 > アキレス腱 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：アキレス腱・アキレス腱断裂の徒手検査を理解する】実習生が「足関節前方引き出しテスト」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 下腿三頭筋を圧迫し足関節底屈の有無を確認する。
- イ. 半月板損傷を評価する。
- ウ. 前十字靱帯を評価する。
- エ. 主に前距腓靱帯の不安定性を評価する。

## 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「Thompsonテスト」に関する内容で、今回の誤判断「足関節前方引き出しテスト」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「McMurrayテスト」に関する内容で、今回の誤判断「足関節前方引き出しテスト」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「Lachmanテスト」に関する内容で、今回の誤判断「足関節前方引き出しテスト」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「足関節前方引き出しテスト」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「足関節前方引き出しテスト」は不適切である。理由は、主に前距腓靱帯の不安定性を評価する。この論点での適切な判断は「Thompsonテスト」である。

### JS04-PDF-089

4-3 下腿・足関節 > アキレス腱 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：アキレス腱・Thompsonテストの陽性所見を理解する】「下腿三頭筋を把持しても足関節底屈が起こりにくい」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 腱の連続性が失われると筋収縮力が踵骨へ伝わらない。
- イ. 腱連続性が保たれている所見に近い。
- ウ. アキレス腱機能評価ではない。
- エ. 検査部位と無関係である。

### 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「下腿三頭筋を把持しても足関節底屈が起こりにくい」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「足関節が強く底屈する」に関する内容で、今回の「下腿三頭筋を把持しても足関節底屈が起こりにくい」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「膝蓋骨だけが上方移動する」に関する内容で、今回の「下腿三頭筋を把持しても足関節底屈が起こりにくい」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「手指だけが屈曲する」に関する内容で、今回の「下腿三頭筋を把持しても足関節底屈が起こりにくい」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「下腿三頭筋を把持しても足関節底屈が起こりにくい」が適切である。根拠は、腱の連続性が失われると筋収縮力が踵骨へ伝わらない。

### JS04-PDF-090

4-3 下腿・足関節 > アキレス腱 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：アキレス腱・歩行可能でもアキレス腱断裂を除外しない】実習生が「歩行だけで断裂部位を確定できる」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 急性期には疼痛を伴う。
- イ. 完全断裂でも歩行可能なことがある。
- ウ. 触診・徒手検査・画像を組み合わせる。
- エ. 周囲筋や足部構造により歩ける場合があり、つま先立ちやThompsonテストなどを評価する。

### 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「断裂では疼痛は必ず全くない」に関する内容で、今回の誤判断「歩行だけで断裂部位を確定できる」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「歩ければ腱は必ず正常である」に関する内容で、今回の誤判断「歩行だけで断裂部位を確定できる」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「歩行だけで断裂部位を確定できる」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「歩行可能だけでは断裂を否定できない」に関する内容で、今回の誤判断「歩行だけで断裂部位を確定できる」の理由ではない。

総合解説：「歩行だけで断裂部位を確定できる」は不適切である。理由は、触診・徒手検査・画像を組み合わせる。この論点での適切な判断は「歩行可能だけでは断裂を否定できない」である。

### JS04-PDF-091

4-3 下腿・足関節 > アキレス腱 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：アキレス腱・アキレス腱断裂後の後療法を理解する】「腱修復を保護しながら段階的に荷重・可動域・筋力を回復する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 腱強度・筋力回復を確認する必要がある。
- イ. 再断裂を避けつつ機能回復を進めることが重要である。
- ウ. 治癒と機能を経時的に評価する。
- エ. 修復部を過度に伸張する危険がある。

### 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「疼痛がなくなれば即全力ダッシュする」に関する内容で、今回の「腱修復を保護しながら段階的に荷重・可動域・筋力を回復する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「腱修復を保護しながら段階的に荷重・可動域・筋力を回復する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「固定後は一切再評価しない」に関する内容で、今回の「腱修復を保護しながら段階的に荷重・可動域・筋力を回復する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「受傷直後から最大背屈ストレッチを反復する」に関する内容で、今回の「腱修復を保護しながら段階的に荷重・可動域・筋力を回復する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「腱修復を保護しながら段階的に荷重・可動域・筋力を回復する」が適切である。根拠は、再断裂を避けつつ機能回復を進めることが重要である。

### JS04-PDF-092

4-3 下腿・足関節 > アキレス腱 難易度：1 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：アキレス腱・アキレス腱断裂後の競技復帰を理解する】実習生が「つま先立ちを評価しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 再断裂リスクが残る。
- イ. 機能回復の重要な指標である。
- ウ. 日常歩行だけでなく競技に必要な底屈筋力と動作機能まで確認する。
- エ. 下腿三頭筋・アキレス腱機能の有用な指標である。

### 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「歩ければ直ちに競技復帰する」に関する内容で、今回の誤判断「つま先立ちを評価しない」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「健側との筋力差を無視する」に関する内容で、今回の誤判断「つま先立ちを評価しない」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「底屈筋力、片脚つま先立ち、可動域、跳躍・走行機能を総合評価する」に関する内容で、今回の誤判断「つま先立ちを評価しない」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「つま先立ちを評価しない」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「つま先立ちを評価しない」は不適切である。理由は、下腿三頭筋・アキレス腱機能の有用な指標である。この論点での適切な判断は「底屈筋力、片脚つま先立ち、可動域、跳躍・走行機能を総合評価する」である。

## JS04-PDF-093

4-4 足部 > 足根骨 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：足根骨・足根骨の基本構成を理解する】「7個（距骨・踵骨・舟状骨・立方骨・3楔状骨）」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 8個は手根骨の個数であり、足根骨は7個である。

イ. 足根骨は距骨、踵骨、舟状骨、立方骨、3個の楔状骨の計7個である。

ウ. 14個は片足の足趾指骨総数であり、足根骨の個数ではない。

エ. 5本は中足骨の本数であり、足根骨は7個である。

## 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「8個（手根骨の個数と混同した数）」に関する内容で、今回の「7個（距骨・踵骨・舟状骨・立方骨・3楔状骨）」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「7個（距骨・踵骨・舟状骨・立方骨・3楔状骨）」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「14個（片足の足趾指骨総数と混同した数）」に関する内容で、今回の「7個（距骨・踵骨・舟状骨・立方骨・3楔状骨）」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「5個（中足骨の本数と混同した数）」に関する内容で、今回の「7個（距骨・踵骨・舟状骨・立方骨・3楔状骨）」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「7個（距骨・踵骨・舟状骨・立方骨・3楔状骨）」が適切である。根拠は、足根骨は距骨、踵骨、舟状骨、立方骨、3個の楔状骨の計7個である。

## JS04-PDF-094

4-4 足部 > 足根骨 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：足根骨・距骨の関節関係を理解する】実習生が「踵骨」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 距骨頭の前方に位置する。

イ. 距骨の下方に位置するが脛骨・腓骨とは直接関節しない。

ウ. 距骨滑車が脛骨・腓骨で形成されるほぞ穴と関節する。

エ. 外側中足部に位置する。

## 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「舟状骨」に関する内容で、今回の誤判断「踵骨」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「踵骨」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「距骨」に関する内容で、今回の誤判断「踵骨」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「立方骨」に関する内容で、今回の誤判断「踵骨」の理由ではない。

総合解説：「踵骨」は不適切である。理由は、距骨の下方に位置するが脛骨・腓骨とは直接関節しない。この論点での適切な判断は「距骨」である。

### JS04-PDF-095

4-4 足部 > 足根骨 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：足根骨・踵骨骨折の受傷機転を理解する】「踵骨骨折」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 踵への軸圧外力は踵骨骨折の典型的機序である。

イ. 踵強打で最も代表的なのは踵骨である。

ウ. 典型的な踵部軸圧損傷ではない。

エ. 典型的機序ではない。

### 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「踵骨骨折」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「立方骨骨折」に関する内容で、今回の「踵骨骨折」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「舟状骨骨折」に関する内容で、今回の「踵骨骨折」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「内側楔状骨骨折」に関する内容で、今回の「踵骨骨折」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「踵骨骨折」が適切である。根拠は、踵への軸圧外力は踵骨骨折の典型的機序である。

### JS04-PDF-096

4-4 足部 > 足根骨 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：足根骨・踵骨骨折の皮膚危機を理解する】実習生が「手根管症候群」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. アキレス腱牽引で後方骨片が皮膚を圧迫し、皮膚壊死を起こす危険がある。

イ. 小児肘外傷である。

ウ. 局所が異なる。

エ. 上肢の病態である。

### 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「皮膚壊死」に関する内容で、今回の誤判断「手根管症候群」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「肘内障」に関する内容で、今回の誤判断「手根管症候群」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「肩関節脱臼」に関する内容で、今回の誤判断「手根管症候群」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「手根管症候群」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「手根管症候群」は不適切である。理由は、上肢の病態である。この論点での適切な判断は「皮膚壊死」である。

### JS04-PDF-097

4-4 足部 > 足根骨 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：足根骨・踵骨関節内骨折の機能的意義を理解する】「距骨下関節の疼痛と歩行障害につながるため」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 踵骨骨折は距骨下関節面に及ぶことが多く、不整が残ると疼痛・機能障害を来す。
- イ. 関連しない。
- ウ. 局所が異なる。
- エ. 上肢とは無関係である。

### 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「距骨下関節の疼痛と歩行障害につながるため」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「視力を低下させるため」に関する内容で、今回の「距骨下関節の疼痛と歩行障害につながるため」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「必ず膝蓋骨脱臼を起こすため」に関する内容で、今回の「距骨下関節の疼痛と歩行障害につながるため」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「手指拘縮を起こすため」に関する内容で、今回の「距骨下関節の疼痛と歩行障害につながるため」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「距骨下関節の疼痛と歩行障害につながるため」が適切である。根拠は、踵骨骨折は距骨下関節面に及ぶことが多く、不整が残ると疼痛・機能障害を来す。

### JS04-PDF-098

4-4 足部 > 足根骨 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：足根骨・距骨骨折の血行障害を理解する】実習生が「Volkmann拘縮」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 距骨は血行が限られる部位があり、骨折で血流障害が起こると無腐性壊死の危険がある。
- イ. 腱鞘の狭窄性病変である。
- ウ. 手指伸筋機構損傷である。
- エ. 主に前腕虚血性障害である。

### 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「無腐性壊死」に関する内容で、今回の誤判断「Volkmann拘縮」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「ばね指」に関する内容で、今回の誤判断「Volkmann拘縮」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「マレット変形」に関する内容で、今回の誤判断「Volkmann拘縮」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「Volkmann拘縮」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「Volkmann拘縮」は不適切である。理由は、主に前腕虚血性障害である。この論点での適切な判断は「無腐性壊死」である。

## JS04-PDF-099

4-4 足部 > 足根骨 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：足根骨・距骨骨折の後遺症を理解する】「距骨壊死や足関節・距骨下関節の変形性変化」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 距骨の血行障害や関節面損傷により長期合併症を生じることがある。

イ. 局所が異なる。

ウ. 上肢神経障害である。

エ. 距骨骨折の後遺症ではない。

## 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「距骨壊死や足関節・距骨下関節の変形性変化」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「肩関節不安定症」に関する内容で、今回の「距骨壊死や足関節・距骨下関節の変形性変化」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「肘部管症候群」に関する内容で、今回の「距骨壊死や足関節・距骨下関節の変形性変化」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「頸椎症性脊髄症」に関する内容で、今回の「距骨壊死や足関節・距骨下関節の変形性変化」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「距骨壊死や足関節・距骨下関節の変形性変化」が適切である。根拠は、距骨の血行障害や関節面損傷により長期合併症を生じることがある。

## JS04-PDF-100

4-4 足部 > 足根骨 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：足根骨・舟状骨の足部アーチとの関係を理解する】実習生が「腓骨頭」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 上肢の骨である。

イ. 下腿近位部の骨である。

ウ. 舟状骨は距骨と楔状骨の間にあり、内側縦アーチの重要な構成要素である。

エ. 膝前面の骨である。

## 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「上腕骨」に関する内容で、今回の誤判断「腓骨頭」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「腓骨頭」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「舟状骨」に関する内容で、今回の誤判断「腓骨頭」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「膝蓋骨」に関する内容で、今回の誤判断「腓骨頭」の理由ではない。

総合解説：「腓骨頭」は不適切である。理由は、下腿近位部の骨である。この論点での適切な判断は「舟状骨」である。

### JS04-PDF-101

4-4 足部 > 足根骨 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：足根骨・踵骨骨折の安全な初期対応を理解する】「疼痛が強いまま踵荷重歩行を繰り返させる」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 踵骨骨折では荷重により疼痛・転位を悪化させる可能性がある。

イ. ではない。皮膚危機の把握に重要である。

ウ. ではない。下肢外傷の基本評価である。

エ. ではない。骨折形態確認に重要である。

### 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「疼痛が強いまま踵荷重歩行を繰り返させる」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「踵部の腫脹と皮膚状態を確認する」に関する内容で、今回の「疼痛が強いまま踵荷重歩行を繰り返させる」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「神経血管状態を確認する」に関する内容で、今回の「疼痛が強いまま踵荷重歩行を繰り返させる」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「必要に応じ画像評価へつなげる」に関する内容で、今回の「疼痛が強いまま踵荷重歩行を繰り返させる」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「疼痛が強いまま踵荷重歩行を繰り返させる」が適切である。根拠は、踵骨骨折では荷重により疼痛・転位を悪化させる可能性がある。

### JS04-PDF-102

4-4 足部 > 足根骨 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：足根骨・踵骨骨折後の機能回復を理解する】実習生が「全例で永久に荷重禁止とする」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 治癒に応じて機能回復が必要である。

イ. 早すぎる荷重を避けつつ拘縮・筋力低下を予防する。

ウ. 再転位や疼痛悪化の危険がある。

エ. 経過観察が必要である。

### 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「全例で永久に荷重禁止とする」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「骨癒合と関節面安定性をみながら段階的に荷重と足関節・足部機能を回復する」に関する内容で、今回の誤判断「全例で永久に荷重禁止とする」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「受傷直後から全荷重を強制する」に関する内容で、今回の誤判断「全例で永久に荷重禁止とする」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「皮膚・腫脹の変化を確認しない」に関する内容で、今回の誤判断「全例で永久に荷重禁止とする」の理由ではない。

総合解説：「全例で永久に荷重禁止とする」は不適切である。理由は、治癒に応じて機能回復が必要である。この論点での適切な判断は「骨癒合と関節面安定性をみながら段階的に荷重と足関節・足部機能を回復する」である。

### JS04-PDF-103

4-4 足部 > 中足骨 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：中足骨・中足骨の基本構成を理解する】「5本（第1～第5中足骨）」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 中足骨は第1～第5中足骨の計5本である。
- イ. 7個は足根骨の個数であり、中足骨は5本である。
- ウ. 第1中足骨を除いて数えており、実際は5本である。
- エ. 14個は足趾の指骨総数であり、中足骨の本数ではない。

### 答え・4肢解説

正答：ア

- ア：正しい。この説明が「5本（第1～第5中足骨）」を適切とする根拠に直接対応する。
  - イ：誤り。この説明は「7本（足根骨の個数と混同した数）」に関する内容で、今回の「5本（第1～第5中足骨）」の根拠ではない。
  - ウ：誤り。この説明は「4本（第1中足骨を除いて数えた誤り）」に関する内容で、今回の「5本（第1～第5中足骨）」の根拠ではない。
  - エ：誤り。この説明は「14本（足趾指骨総数と混同した数）」に関する内容で、今回の「5本（第1～第5中足骨）」の根拠ではない。
- 総合解説：この論点では「5本（第1～第5中足骨）」が適切である。根拠は、中足骨は第1～第5中足骨の計5本である。

### JS04-PDF-104

4-4 足部 > 中足骨 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：中足骨・第5中足骨基部裂離骨折を理解する】実習生が「手関節背屈だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 局所が異なる。
- イ. 典型的機序ではない。
- ウ. 第5中足骨基部では外側支持組織の牽引により裂離骨折を生じることがある。
- エ. 足部への外力ではない。

### 答え・4肢解説

正答：エ

- ア：誤り。この説明は「肩外転だけ」に関する内容で、今回の誤判断「手関節背屈だけ」の理由ではない。
  - イ：誤り。この説明は「膝伸展だけ」に関する内容で、今回の誤判断「手関節背屈だけ」の理由ではない。
  - ウ：誤り。この説明は「足部内反時の腱・筋による牽引」に関する内容で、今回の誤判断「手関節背屈だけ」の理由ではない。
  - エ：正しい。この説明が「手関節背屈だけ」が不適切である理由に直接対応する。
- 総合解説：「手関節背屈だけ」は不適切である。理由は、足部への外力ではない。この論点での適切な判断は「足部内反時の腱・筋による牽引」である。

## JS04-PDF-105

4-4 足部 > 中足骨 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：中足骨・Jones骨折の部位を理解する】「第5中足骨近位骨幹端部」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 膝周囲の部位である。

イ. Jones骨折は第5中足骨近位部の特定領域に生じる骨折である。

ウ. 足趾骨である。

エ. 足根骨である。

## 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「脛骨粗面」に関する内容で、今回の「第5中足骨近位骨幹端部」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「第5中足骨近位骨幹端部」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「母趾末節骨」に関する内容で、今回の「第5中足骨近位骨幹端部」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「距骨滑車」に関する内容で、今回の「第5中足骨近位骨幹端部」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「第5中足骨近位骨幹端部」が適切である。根拠は、Jones骨折は第5中足骨近位部の特定領域に生じる骨折である。

## JS04-PDF-106

4-4 足部 > 中足骨 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：中足骨・Jones骨折の治癒特性を理解する】実習生が「必ず自然に即日治癒するため」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. むしろ治癒遅延が問題となる。

イ. 閉鎖性も多い。

ウ. 骨癒合が重要な問題である。

エ. 第5中足骨近位部は治癒に難渋することがあり、活動継続で悪化する場合がある。

## 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「必ず自然に即日治癒するため」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「必ず開放骨折だから」に関する内容で、今回の誤判断「必ず自然に即日治癒するため」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「神経損傷しか起こらないため」に関する内容で、今回の誤判断「必ず自然に即日治癒するため」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「治癒遅延や偽関節を起こすことがあるため」に関する内容で、今回の誤判断「必ず自然に即日治癒するため」の理由ではない。

総合解説：「必ず自然に即日治癒するため」は不適切である。理由は、むしろ治癒遅延が問題となる。この論点での適切な判断は「治癒遅延や偽関節を起こすことがあるため」である。

## JS04-PDF-107

4-4 足部 > 中足骨 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：中足骨・中足骨疲労骨折を疑う】「中足骨疲労骨折」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 小児肘外傷である。
- イ. 受傷部位が異なる。
- ウ. 反復負荷で中足骨に疲労骨折を生じることがあり、運動時痛が典型である。
- エ. 局所が異なる。

## 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「肘内障」に関する内容で、今回の「中足骨疲労骨折」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「鎖骨骨折」に関する内容で、今回の「中足骨疲労骨折」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「中足骨疲労骨折」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「肩関節脱臼」に関する内容で、今回の「中足骨疲労骨折」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「中足骨疲労骨折」が適切である。根拠は、反復負荷で中足骨に疲労骨折を生じることがあり、運動時痛が典型である。

## JS04-PDF-108

4-4 足部 > 中足骨 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：中足骨・中足骨疲労骨折の名称を理解する】実習生が「Bennett骨折」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 母指中手骨基部骨折である。
- イ. 前腕骨折脱臼である。
- ウ. 長距離歩行など反復負荷で中足骨に生じる疲労骨折は行軍骨折と呼ばれてきた。
- エ. 橈骨遠位端骨折である。

## 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「Bennett骨折」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「Monteggia損傷」に関する内容で、今回の誤判断「Bennett骨折」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「行軍骨折」に関する内容で、今回の誤判断「Bennett骨折」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「Colles骨折」に関する内容で、今回の誤判断「Bennett骨折」の理由ではない。

総合解説：「Bennett骨折」は不適切である。理由は、母指中手骨基部骨折である。この論点での適切な判断は「行軍骨折」である。

### JS04-PDF-109

4-4 足部 > 中足骨 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：中足骨・中足骨骨折を系統的に評価する】「足部アライメント、荷重痛、局所圧痛を確認する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 中足骨の配列異常や荷重時痛は歩行機能に影響する。

イ. 局所が異なる。

ウ. 足部骨折の評価ではない。

エ. 患足評価にならない。

### 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「足部アライメント、荷重痛、局所圧痛を確認する」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「肩関節可動域だけを測る」に関する内容で、今回の「足部アライメント、荷重痛、局所圧痛を確認する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「視力だけを測る」に関する内容で、今回の「足部アライメント、荷重痛、局所圧痛を確認する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「手指感覚だけを確認する」に関する内容で、今回の「足部アライメント、荷重痛、局所圧痛を確認する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「足部アライメント、荷重痛、局所圧痛を確認する」が適切である。根拠は、中足骨の配列異常や荷重時痛は歩行機能に影響する。

### JS04-PDF-110

4-4 足部 > 中足骨 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：中足骨・Lisfranc関節損傷を理解する】実習生が「肩鎖関節脱臼」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 局所が異なる。

イ. 肘の損傷である。

ウ. 足根中足関節の靱帯・骨損傷で不安定性を生じる。

エ. 肩の損傷である。

### 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「股関節脱臼」に関する内容で、今回の誤判断「肩鎖関節脱臼」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「肘関節脱臼」に関する内容で、今回の誤判断「肩鎖関節脱臼」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「Lisfranc関節損傷」に関する内容で、今回の誤判断「肩鎖関節脱臼」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「肩鎖関節脱臼」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「肩鎖関節脱臼」は不適切である。理由は、肩の損傷である。この論点での適切な判断は「Lisfranc関節損傷」である。

## JS04-PDF-111

4-4 足部 > 中足骨 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：中足骨・Lisfranc損傷の後遺症を理解する】「足部アーチの破綻や慢性疼痛」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 足部損傷の後遺症ではない。
- イ. 局所が異なる。
- ウ. 上肢の神経障害である。
- エ. 足根中足関節の不整合が残ると荷重時痛や変形性変化を生じ得る。

## 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「肩関節拘縮」に関する内容で、今回の「足部アーチの破綻や慢性疼痛」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「上腕骨頭壊死」に関する内容で、今回の「足部アーチの破綻や慢性疼痛」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「手根管症候群」に関する内容で、今回の「足部アーチの破綻や慢性疼痛」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「足部アーチの破綻や慢性疼痛」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「足部アーチの破綻や慢性疼痛」が適切である。根拠は、足根中足関節の不整合が残ると荷重時痛や変形性変化を生じ得る。

## JS04-PDF-112

4-4 足部 > 足趾 難易度：1 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：足趾・足趾指骨の基本構成を理解する】実習生が「1個（末節骨だけを数えた誤り）」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 末節骨だけを数えており、基節骨・中節骨も含めて3個である。
- イ. 5本は中足骨の本数であり、1本の足趾の指骨数ではない。
- ウ. 母趾を除く足趾は通常、基節骨・中節骨・末節骨の3個からなる。
- エ. 2個は母趾の指骨構成で、第2～5趾は通常3個である。

## 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「1個（末節骨だけを数えた誤り）」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「5個（中足骨の本数と混同した数）」に関する内容で、今回の誤判断「1個（末節骨だけを数えた誤り）」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「3個（基節骨・中節骨・末節骨）」に関する内容で、今回の誤判断「1個（末節骨だけを数えた誤り）」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「2個（母趾の指骨構成）」に関する内容で、今回の誤判断「1個（末節骨だけを数えた誤り）」の理由ではない。

総合解説：「1個（末節骨だけを数えた誤り）」は不適切である。理由は、末節骨だけを数えており、基節骨・中節骨も含めて3個である。この論点での適切な判断は「3個（基節骨・中節骨・末節骨）」である。

## JS04-PDF-113

4-4 足部 > 足趾 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：足趾・母趾の指骨構成を理解する】「2個（基節骨と末節骨）」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 3個は第2～5趾の通常の構成であり、母趾は2個である。

イ. 母趾の指骨は4個ではなく2個である。

ウ. 母趾は基節骨と末節骨の2個からなる。

エ. 母趾には基節骨と末節骨があり、2個である。

## 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「3個（第2～5趾の構成と混同）」に関する内容で、今回の「2個（基節骨と末節骨）」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「4個（母趾の指骨構成にはない数）」に関する内容で、今回の「2個（基節骨と末節骨）」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「2個（基節骨と末節骨）」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「1個（末節骨だけを数えた誤り）」に関する内容で、今回の「2個（基節骨と末節骨）」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「2個（基節骨と末節骨）」が適切である。根拠は、母趾は基節骨と末節骨の2個からなる。

## JS04-PDF-114

4-4 足部 > 足趾 難易度：1 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：足趾・足趾末節骨骨折の受傷機転を理解する】実習生が「舟状骨骨折」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 局所が異なる。

イ. 足趾先端への直達外力では末節骨骨折を伴うことがある。

ウ. 手根骨にも同名骨があるが足趾末節骨ではない。

エ. 上肢骨折である。

## 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「鎖骨骨折」に関する内容で、今回の誤判断「舟状骨骨折」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「末節骨骨折」に関する内容で、今回の誤判断「舟状骨骨折」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「舟状骨骨折」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「上腕骨骨折」に関する内容で、今回の誤判断「舟状骨骨折」の理由ではない。

総合解説：「舟状骨骨折」は不適切である。理由は、手根骨にも同名骨があるが足趾末節骨ではない。この論点での適切な判断は「末節骨骨折」である。

## JS04-PDF-115

4-4 足部 > 足趾 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：足趾・足趾開放骨折のリスクを理解する】「開放骨折と感染」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 創を伴えば開放骨折を考える。

イ. 爪床損傷を介して骨折部が外界と交通する可能性がある。

ウ. 末梢循環・感覚確認が必要である。

エ. 開放骨折では感染リスクがある。

## 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「必ず閉鎖骨折である」に関する内容で、今回の「開放骨折と感染」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「開放骨折と感染」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「神経血管評価は不要である」に関する内容で、今回の「開放骨折と感染」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「感染は起こらない」に関する内容で、今回の「開放骨折と感染」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「開放骨折と感染」が適切である。根拠は、爪床損傷を介して骨折部が外界と交通する可能性がある。

## JS04-PDF-116

4-4 足部 > 足趾 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：足趾・足趾骨折の基本固定を理解する】実習生が「足趾を強く過伸展位に固定する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 足趾骨折の固定にならない。

イ. 局所が異なる。

ウ. 安定した軽度骨折では隣接趾と固定し支持する方法が用いられる。

エ. 疼痛・軟部損傷を悪化させる可能性がある。

## 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「肘90度固定だけ」に関する内容で、今回の誤判断「足趾を強く過伸展位に固定する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「肩関節外転位固定」に関する内容で、今回の誤判断「足趾を強く過伸展位に固定する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「隣接趾と固定するbuddy taping」に関する内容で、今回の誤判断「足趾を強く過伸展位に固定する」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「足趾を強く過伸展位に固定する」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「足趾を強く過伸展位に固定する」は不適切である。理由は、疼痛・軟部損傷を悪化させる可能性がある。この論点での適切な判断は「隣接趾と固定するbuddy taping」である。

### JS04-PDF-117

4-4 足部 > 足趾 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：足趾・母趾骨折の機能的意義を理解する】「歩行時の蹴り出しと荷重に重要だから」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. むしろ重要である。

イ. 疼痛を伴う。

ウ. 母趾は立脚後期の推進に重要で、変形や関節障害が歩行へ影響する。

エ. MTP・IP関節がある。

### 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「母趾は荷重に関与しないから」に関する内容で、今回の「歩行時の蹴り出しと荷重に重要だから」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「母趾骨折は必ず無痛だから」に関する内容で、今回の「歩行時の蹴り出しと荷重に重要だから」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「歩行時の蹴り出しと荷重に重要だから」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「母趾には関節がないから」に関する内容で、今回の「歩行時の蹴り出しと荷重に重要だから」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「歩行時の蹴り出しと荷重に重要だから」が適切である。根拠は、母趾は立脚後期の推進に重要で、変形や関節障害が歩行へ影響する。

### JS04-PDF-118

4-4 足部 > 足趾 難易度：1 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：足趾・足趾脱臼の整復前後評価を理解する】実習生が「視力だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 患趾を評価する。

イ. 局所が異なる。

ウ. 局所評価にならない。

エ. 脱臼や整復操作で神経血管障害を生じる可能性があるため確認する。

### 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「手指感覚だけ」に関する内容で、今回の誤判断「視力だけ」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「肩関節可動域だけ」に関する内容で、今回の誤判断「視力だけ」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「視力だけ」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「末梢循環、感覚、関節整合性」に関する内容で、今回の誤判断「視力だけ」の理由ではない。

総合解説：「視力だけ」は不適切である。理由は、局所評価にならない。この論点での適切な判断は「末梢循環、感覚、関節整合性」である。

### JS04-PDF-119

4-4 足部 > 足趾 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：足趾・足趾変形治癒の機能障害を理解する】「配列異常が歩行・靴適合に影響している可能性がある」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 歩行や靴適合へ影響し得る。
- イ. 局所変形で説明できる。
- ウ. 足趾の角状・回旋変形は荷重や靴との摩擦に影響する。
- エ. 症状が続けば評価が必要である。

### 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「足趾変形は機能に影響しない」に関する内容で、今回の「配列異常が歩行・靴適合に影響している可能性がある」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「疼痛は必ず肩由来である」に関する内容で、今回の「配列異常が歩行・靴適合に影響している可能性がある」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「配列異常が歩行・靴適合に影響している可能性がある」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「骨折後は一切再評価不要である」に関する内容で、今回の「配列異常が歩行・靴適合に影響している可能性がある」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「配列異常が歩行・靴適合に影響している可能性がある」が適切である。根拠は、足趾の角状・回旋変形は荷重や靴との摩擦に影響する。

### JS04-PDF-120

4-4 足部 > 足趾 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：足趾・足趾骨折後の機能回復を理解する】実習生が「腫脹や靴適合を確認しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 再損傷の危険がある。
- イ. 機能回復評価に重要である。
- ウ. 過度な固定を避け、安定性に応じて機能回復を進める。
- エ. 拘縮を招く可能性がある。

### 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「疼痛が強くても直ちに全力走行する」に関する内容で、今回の誤判断「腫脹や靴適合を確認しない」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「腫脹や靴適合を確認しない」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「骨癒合と疼痛をみながら、段階的に荷重と足趾可動域を回復する」に関する内容で、今回の誤判断「腫脹や靴適合を確認しない」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「全例で長期完全固定する」に関する内容で、今回の誤判断「腫脹や靴適合を確認しない」の理由ではない。

総合解説：「腫脹や靴適合を確認しない」は不適切である。理由は、機能回復評価に重要である。この論点での適切な判断は「骨癒合と疼痛をみながら、段階的に荷重と足趾可動域を回復する」である。

## JS04-PDF-121

4-5 脊柱・胸郭 > 頸椎 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：頸椎・頸椎の基本解剖を理解する】「7個（C1～C7）」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 12個は胸椎の数であり、頸椎は7個である。

イ. C1・C2だけを数えており、頸椎はC1～C7の7個である。

ウ. 頸椎はC1～C7の7個である。

エ. 5個は腰椎の数であり、頸椎は7個である。

## 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「12個（胸椎の個数と混同した数）」に関する内容で、今回の「7個（C1～C7）」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「2個（上位頸椎だけを数えた誤り）」に関する内容で、今回の「7個（C1～C7）」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「7個（C1～C7）」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「5個（腰椎の個数と混同した数）」に関する内容で、今回の「7個（C1～C7）」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「7個（C1～C7）」が適切である。根拠は、頸椎はC1～C7の7個である。

## JS04-PDF-122

4-5 脊柱・胸郭 > 頸椎 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：頸椎・上位頸椎の名称を理解する】実習生が「第2頸椎」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 隆椎と呼ばれる。

イ. 胸椎である。

ウ. 第2頸椎は軸椎である。

エ. 第1頸椎を環椎（atlas）という。

## 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「第7頸椎」に関する内容で、今回の誤判断「第2頸椎」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「第1胸椎」に関する内容で、今回の誤判断「第2頸椎」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「第2頸椎」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「第1頸椎」に関する内容で、今回の誤判断「第2頸椎」の理由ではない。

総合解説：「第2頸椎」は不適切である。理由は、第2頸椎は軸椎である。この論点での適切な判断は「第1頸椎」である。

### JS04-PDF-123

4-5 脊柱・胸郭 > 頸椎 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：頸椎・軸椎歯突起の解剖を理解する】「第2頸椎」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 歯突起はもたない。
- イ. 腰椎である。
- ウ. 軸椎（C2）の歯突起が環椎との回旋運動に重要である。
- エ. 環椎には椎体・歯突起がない。

### 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「第5頸椎」に関する内容で、今回の「第2頸椎」の根拠ではない。  
 イ：誤り。この説明は「第1腰椎」に関する内容で、今回の「第2頸椎」の根拠ではない。  
 ウ：正しい。この説明が「第2頸椎」を適切とする根拠に直接対応する。  
 エ：誤り。この説明は「第1頸椎」に関する内容で、今回の「第2頸椎」の根拠ではない。  
 総合解説：この論点では「第2頸椎」が適切である。根拠は、軸椎（C2）の歯突起が環椎との回旋運動に重要である。

### JS04-PDF-124

4-5 脊柱・胸郭 > 頸椎 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：頸椎・外傷性頸部症候群の評価を理解する】実習生が「全例で画像評価が不要である」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 症状・受傷機転に応じて画像精査が必要である。
- イ. むち打ち症は俗称であり、神経学的所見と必要な画像評価で重篤損傷を除外する。
- ウ. 骨折・脱臼を伴わないことも多い。
- エ. しびれ・麻痺の評価が必要である。

### 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「全例で画像評価が不要である」が不適切である理由に直接対応する。  
 イ：誤り。この説明は「医学的には外傷性頸部症候群などとして評価し、骨折・脱臼や神経障害を除外する」に関する内容で、今回の誤判断「全例で画像評価が不要である」の理由ではない。  
 ウ：誤り。この説明は「必ず骨折を伴う病名である」に関する内容で、今回の誤判断「全例で画像評価が不要である」の理由ではない。  
 エ：誤り。この説明は「神経学的診察は不要である」に関する内容で、今回の誤判断「全例で画像評価が不要である」の理由ではない。  
 総合解説：「全例で画像評価が不要である」は不適切である。理由は、症状・受傷機転に応じて画像精査が必要である。この論点での適切な判断は「医学的には外傷性頸部症候群などとして評価し、骨折・脱臼や神経障害を除外する」である。

## JS04-PDF-125

4-5 脊柱・胸郭 > 頸椎 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：頸椎・頸椎外傷の神経症状を認識する】「頸髄損傷」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 四肢麻痺の原因ではない。
- イ. 四肢症状を説明しない。
- ウ. 頸髄障害では上肢・下肢の運動知覚障害を生じ得る。
- エ. 四肢全体の神経症状を説明しない。

## 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「肋骨疲労骨折」に関する内容で、今回の「頸髄損傷」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「単純な足関節捻挫」に関する内容で、今回の「頸髄損傷」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「頸髄損傷」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「手指の腱鞘炎」に関する内容で、今回の「頸髄損傷」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「頸髄損傷」が適切である。根拠は、頸髄障害では上肢・下肢の運動知覚障害を生じ得る。

## JS04-PDF-126

4-5 脊柱・胸郭 > 頸椎 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：頸椎・頸椎外傷の初期固定原則を理解する】実習生が「可動域を確認するため最大屈曲・伸展を反復する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 非骨傷性頸髄損傷などもある。
- イ. 重篤な神経障害を悪化させ得る。
- ウ. 脊髄二次損傷を防ぐため頸椎を保護しながら評価する。
- エ. 脊髄損傷を悪化させる危険がある。

## 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「疼痛が少なければ頸椎損傷を完全否定する」に関する内容で、今回の誤判断「可動域を確認するため最大屈曲・伸展を反復する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「麻痺があっても歩行させる」に関する内容で、今回の誤判断「可動域を確認するため最大屈曲・伸展を反復する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「不用意な頸部運動を避け、中間位を保って神経学的評価と専門医療につなげる」に関する内容で、今回の誤判断「可動域を確認するため最大屈曲・伸展を反復する」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「可動域を確認するため最大屈曲・伸展を反復する」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「可動域を確認するため最大屈曲・伸展を反復する」は不適切である。理由は、脊髄損傷を悪化させる危険がある。この論点での適切な判断は「不用意な頸部運動を避け、中間位を保って神経学的評価と専門医療につなげる」である。

## JS04-PDF-127

4-5 脊柱・胸郭 > 頸椎 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：頸椎・非骨傷性頸髄損傷を理解する】「非骨傷性頸髄損傷」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 母指中手骨基部骨折である。

イ. 第5中足骨骨折である。

ウ. もともと脊柱管狭窄がある高齢者などでは骨傷が明らかでなくても頸髄損傷を生じることがある。

エ. 手関節尺側の損傷である。

## 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「Bennett骨折」に関する内容で、今回の「非骨傷性頸髄損傷」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「Jones骨折」に関する内容で、今回の「非骨傷性頸髄損傷」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「非骨傷性頸髄損傷」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「TFCC損傷」に関する内容で、今回の「非骨傷性頸髄損傷」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「非骨傷性頸髄損傷」が適切である。根拠は、もともと脊柱管狭窄がある高齢者などでは骨傷が明らかでなくても頸髄損傷を生じることがある。

## JS04-PDF-128

4-5 脊柱・胸郭 > 頸椎 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：頸椎・頸髄損傷の神経学的所見を理解する】実習生が「必ず上肢だけに症状が限局する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 頸髄では上下肢に症状が出ることがある。

イ. 脊髄損傷では損傷部より遠位に運動・知覚障害を生じる。

ウ. 知覚障害も代表的である。

エ. 神経症状を伴う。

## 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「必ず上肢だけに症状が限局する」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「運動・知覚障害」に関する内容で、今回の誤判断「必ず上肢だけに症状が限局する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「感覚障害は生じない」に関する内容で、今回の誤判断「必ず上肢だけに症状が限局する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「骨折部だけの局所痛しか生じない」に関する内容で、今回の誤判断「必ず上肢だけに症状が限局する」の理由ではない。

総合解説：「必ず上肢だけに症状が限局する」は不適切である。理由は、頸髄では上下肢に症状が出ることがある。この論点での適切な判断は「運動・知覚障害」である。

## JS04-PDF-129

4-5 脊柱・胸郭 > 頸椎 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：頸椎・頸髄障害の症状を理解する】「脊髄障害」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 四肢神経症状を説明しない。
- イ. 手指巧緻性低下と歩行障害の組合せは頸髄障害を示唆する。
- ウ. 歩行障害を説明しない。
- エ. 上肢症状を説明しない。

## 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「中足骨疲労骨折だけ」に関する内容で、今回の「脊髄障害」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「脊髄障害」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「鎖骨骨折だけ」に関する内容で、今回の「脊髄障害」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「足趾骨折だけ」に関する内容で、今回の「脊髄障害」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「脊髄障害」が適切である。根拠は、手指巧緻性低下と歩行障害の組合せは頸髄障害を示唆する。

## JS04-PDF-130

4-5 脊柱・胸郭 > 頸椎 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：頸椎・頸椎外傷の画像検査を理解する】実習生が「骨折評価に患部画像は不要である」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨性損傷と神経・軟部組織損傷で画像の役割が異なる。
- イ. 骨折・脱臼確認に重要である。
- ウ. MRIが有用である。
- エ. 適切な頸椎画像が必要である。

## 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「骨折・脱臼にはX線・CT、脊髄・椎間板・靱帯評価にはMRIが有用である」に関する内容で、今回の誤判断「骨折評価に患部画像は不要である」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「骨折評価に患部画像は不要である」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「脊髄損傷は画像で評価できない」に関する内容で、今回の誤判断「骨折評価に患部画像は不要である」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「胸部X線だけで全頸椎損傷を確定できる」に関する内容で、今回の誤判断「骨折評価に患部画像は不要である」の理由ではない。

総合解説：「骨折評価に患部画像は不要である」は不適切である。理由は、骨折・脱臼確認に重要である。この論点での適切な判断は「骨折・脱臼にはX線・CT、脊髄・椎間板・靱帯評価にはMRIが有用である」である。

### JS04-PDF-131

4-5 脊柱・胸郭 > 頸椎 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：頸椎・外傷性頸部症候群の後療法を理解する】「急性期を過ぎたら過度な安静を避け、症状に応じて徐々に活動を戻す」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 長期の不必要な安静は症状長期化の一因となり得る。
- イ. 不必要な長期固定は推奨されない。
- ウ. 安全確認が先である。
- エ. 新規神経症状は再評価が必要である。

### 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「急性期を過ぎたら過度な安静を避け、症状に応じて徐々に活動を戻す」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「症状が軽くても数か月完全固定する」に関する内容で、今回の「急性期を過ぎたら過度な安静を避け、症状に応じて徐々に活動を戻す」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「骨折除外前から最大頸部運動を行う」に関する内容で、今回の「急性期を過ぎたら過度な安静を避け、症状に応じて徐々に活動を戻す」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「神経症状が出てても再評価しない」に関する内容で、今回の「急性期を過ぎたら過度な安静を避け、症状に応じて徐々に活動を戻す」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「急性期を過ぎたら過度な安静を避け、症状に応じて徐々に活動を戻す」が適切である。根拠は、長期の不必要な安静は症状長期化の一因となり得る。

### JS04-PDF-132

4-5 脊柱・胸郭 > 頸椎 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：頸椎・高位頸髄損傷の生命危機を理解する】実習生が「頸椎と呼吸は完全に無関係だから」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 頸髄損傷でも重要である。
- イ. 頸髄損傷で重大となる。
- ウ. 高位頸髄は呼吸に重要である。
- エ. 高位頸髄障害では横隔膜を含む呼吸機能へ影響し得る。

### 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「呼吸評価は胸郭外傷にしか必要ないため」に関する内容で、今回の誤判断「頸椎と呼吸は完全に無関係だから」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「呼吸障害は足関節捻挫でしか起こらないため」に関する内容で、今回の誤判断「頸椎と呼吸は完全に無関係だから」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「頸椎と呼吸は完全に無関係だから」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「高位頸髄損傷では呼吸筋機能が障害されることがあるため」に関する内容で、今回の誤判断「頸椎と呼吸は完全に無関係だから」の理由ではない。

総合解説：「頸椎と呼吸は完全に無関係だから」は不適切である。理由は、高位頸髄は呼吸に重要である。この論点での適切な判断は「高位頸髄損傷では呼吸筋機能が障害されることがあるため」である。

### JS04-PDF-133

4-5 脊柱・胸郭 > 胸腰椎 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：胸腰椎・胸腰椎移行部骨折の力学を理解する】「可動性の低い胸椎から可動性の高い腰椎へ移行するため力が集中しやすい」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 胸腰椎移行部は力学的ストレスが集中しやすい。
- イ. 局所が異なる。
- ウ. 脊椎が連続する部位である。
- エ. 体幹荷重を受ける。

### 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「可動性の低い胸椎から可動性の高い腰椎へ移行するため力が集中しやすい」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「手関節と直接関節するから」に関する内容で、今回の「可動性の低い胸椎から可動性の高い腰椎へ移行するため力が集中しやすい」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「脊椎が存在しない部位だから」に関する内容で、今回の「可動性の低い胸椎から可動性の高い腰椎へ移行するため力が集中しやすい」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「全く荷重されないから」に関する内容で、今回の「可動性の低い胸椎から可動性の高い腰椎へ移行するため力が集中しやすい」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「可動性の低い胸椎から可動性の高い腰椎へ移行するため力が集中しやすい」が適切である。根拠は、胸腰椎移行部は力学的ストレスが集中しやすい。

### JS04-PDF-134

4-5 脊柱・胸郭 > 胸腰椎 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：胸腰椎・骨粗鬆症性椎体骨折の背景を理解する】実習生が「足関節内反だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 典型的背景ではない。
- イ. 骨脆弱性が強いと軽い外力や日常動作でも椎体圧迫骨折が起こり得る。
- ウ. 脊椎への外力ではない。
- エ. 胸腰椎骨折の代表機序ではない。

### 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「若年者の肩外転だけ」に関する内容で、今回の誤判断「足関節内反だけ」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「高齢者が尻もちをつく、あるいは軽微な体動で発症する」に関する内容で、今回の誤判断「足関節内反だけ」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「手指切創だけ」に関する内容で、今回の誤判断「足関節内反だけ」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「足関節内反だけ」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「足関節内反だけ」は不適切である。理由は、胸腰椎骨折の代表機序ではない。この論点での適切な判断は「高齢者が尻もちをつく、あるいは軽微な体動で発症する」である。

## JS04-PDF-135

4-5 脊柱・胸郭 > 胸腰椎 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：胸腰椎・椎体骨折の症状を理解する】「寝起きなど体動時に増強する背腰部痛」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 足趾外傷である。

イ. 体位変換時に鋭い疼痛が出る体動時腰痛が特徴となることがある。

ウ. 肩関節脱臼の所見である。

エ. 局所症状として典型的ではない。

## 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「足趾爪下血腫だけ」に関する内容で、今回の「寝起きなど体動時に増強する背腰部痛」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「寝起きなど体動時に増強する背腰部痛」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「肩峰突出だけ」に関する内容で、今回の「寝起きなど体動時に増強する背腰部痛」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「手指のしびれだけ」に関する内容で、今回の「寝起きなど体動時に増強する背腰部痛」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「寝起きなど体動時に増強する背腰部痛」が適切である。根拠は、体位変換時に鋭い疼痛が出る体動時腰痛が特徴となることがある。

## JS04-PDF-136

4-5 脊柱・胸郭 > 胸腰椎 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：胸腰椎・潜在性椎体骨折を見逃さない】実習生が「X線陰性なら骨折を完全否定する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 症状を悪化させ得る。

イ. 重要な背景因子である。

ウ. 発症初期には単純X線で変形が明瞭でない場合がある。

エ. 潜在性椎体骨折があり得る。

## 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「疼痛が強くても重量物運搬を勧める」に関する内容で、今回の誤判断「X線陰性なら骨折を完全否定する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「骨粗鬆症歴を無視する」に関する内容で、今回の誤判断「X線陰性なら骨折を完全否定する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「新鮮椎体骨折を否定せず、必要に応じMRIなど追加評価を考える」に関する内容で、今回の誤判断「X線陰性なら骨折を完全否定する」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「X線陰性なら骨折を完全否定する」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「X線陰性なら骨折を完全否定する」は不適切である。理由は、潜在性椎体骨折があり得る。この論点での適切な判断は「新鮮椎体骨折を否定せず、必要に応じMRIなど追加評価を考える」である。

## JS04-PDF-137

4-5 脊柱・胸郭 > 胸腰椎 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：胸腰椎・破裂骨折の神経合併症を理解する】「骨片の脊柱管内突出による神経障害」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 胸腰椎骨折の主要合併症ではない。

イ. 破裂骨折では後壁骨片が脊柱管へ突出し脊髄・馬尾を圧迫することがある。

ウ. 上肢末梢神経障害である。

エ. 局所が異なる。

## 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「足趾腱損傷」に関する内容で、今回の「骨片の脊柱管内突出による神経障害」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「骨片の脊柱管内突出による神経障害」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「手根管症候群」に関する内容で、今回の「骨片の脊柱管内突出による神経障害」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「肩関節不安定性」に関する内容で、今回の「骨片の脊柱管内突出による神経障害」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「骨片の脊柱管内突出による神経障害」が適切である。根拠は、破裂骨折では後壁骨片が脊柱管へ突出し脊髄・馬尾を圧迫することがある。

## JS04-PDF-138

4-5 脊柱・胸郭 > 胸腰椎 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：胸腰椎・胸腰椎外傷の神経レッドフラッグを理解する】実習生が「経過観察だけでよい」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 神経学的緊急所見である。

イ. 症状分布が異なる。

ウ. 迅速な専門評価が必要である。

エ. 両下肢神経症状や膀胱直腸障害は重篤な神経圧迫を示唆する。

## 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「単純な筋肉痛として歩行させる」に関する内容で、今回の誤判断「経過観察だけでよい」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「足関節捻挫と判断する」に関する内容で、今回の誤判断「経過観察だけでよい」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「経過観察だけでよい」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「脊髄・馬尾神経損傷を疑い緊急評価する」に関する内容で、今回の誤判断「経過観察だけでよい」の理由ではない。

総合解説：「経過観察だけでよい」は不適切である。理由は、迅速な専門評価が必要である。この論点での適切な判断は「脊髄・馬尾神経損傷を疑い緊急評価する」である。

### JS04-PDF-139

4-5 脊柱・胸郭 > 胸腰椎 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：胸腰椎・不安定脊椎損傷の二次障害を理解する】「二次的神経損傷を防ぐため脊柱を保護し専門治療へつなげる」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 転位・神経損傷を悪化させ得る。
- イ. 不安定骨折では後から神経障害が出現することもある。
- ウ. 骨折型に応じた管理が必要である。
- エ. 後発神経障害の危険がある。

### 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「可動性を確認するため体幹を強く捻る」に関する内容で、今回の「二次的神経損傷を防ぐため脊柱を保護し専門治療へつなげる」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「二次的神経損傷を防ぐため脊柱を保護し専門治療へつなげる」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「全例で直ちに全荷重運動する」に関する内容で、今回の「二次的神経損傷を防ぐため脊柱を保護し専門治療へつなげる」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「麻痺がなければ不安定性を無視する」に関する内容で、今回の「二次的神経損傷を防ぐため脊柱を保護し専門治療へつなげる」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「二次的神経損傷を防ぐため脊柱を保護し専門治療へつなげる」が適切である。根拠は、不安定骨折では後から神経障害が出現することもある。

### JS04-PDF-140

4-5 脊柱・胸郭 > 胸腰椎 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：胸腰椎・椎体骨折の保存療法を理解する】実習生が「疼痛があっても装具や評価は不要である」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨折状態に応じて保護が必要である。
- イ. 椎体前方圧潰を悪化させ得る。
- ウ. 外固定と活動調整を用い、長期臥床を避けつつ治療する。
- エ. 廃用を招く。

### 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「疼痛があっても装具や評価は不要である」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「骨折直後から強い前屈運動を反復する」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛があっても装具や評価は不要である」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「装具などで保護し、疼痛と骨折状態をみながら離床を進める」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛があっても装具や評価は不要である」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「全例で永久臥床とする」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛があっても装具や評価は不要である」の理由ではない。

総合解説：「疼痛があっても装具や評価は不要である」は不適切である。理由は、骨折状態に応じて保護が必要である。この論点での適切な判断は「装具などで保護し、疼痛と骨折状態をみながら離床を進める」である。

### JS04-PDF-141

4-5 脊柱・胸郭 > 胸腰椎 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：胸腰椎・胸腰椎骨折後の機能回復を理解する】「神経症状と脊柱安定性を確認しながら体幹機能・歩行を段階的に回復する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 悪化時は再評価が必要である。
- イ. 負荷調整が必要である。
- ウ. 再転位を避けつつ廃用を防ぎ機能回復を図る。
- エ. 廃用・筋力低下を助長する。

### 答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「神経症状の変化を確認しない」に関する内容で、今回の「神経症状と脊柱安定性を確認しながら体幹機能・歩行を段階的に回復する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「疼痛が増えても負荷を上げ続ける」に関する内容で、今回の「神経症状と脊柱安定性を確認しながら体幹機能・歩行を段階的に回復する」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「神経症状と脊柱安定性を確認しながら体幹機能・歩行を段階的に回復する」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「全例で長期完全不動にする」に関する内容で、今回の「神経症状と脊柱安定性を確認しながら体幹機能・歩行を段階的に回復する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「神経症状と脊柱安定性を確認しながら体幹機能・歩行を段階的に回復する」が適切である。根拠は、再転位を避けつつ廃用を防ぎ機能回復を図る。

### JS04-PDF-142

4-5 脊柱・胸郭 > 肋骨 難易度：1 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：肋骨・肋骨骨折の典型症状を理解する】実習生が「膝ロッキングだけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 局所が異なる。
- イ. 半月板損傷などでみられる。
- ウ. 胸郭運動で骨折部が動くため、呼吸・咳・体幹回旋で疼痛が増強しやすい。
- エ. 上肢腱損傷の所見である。

### 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「足関節不安定感だけ」に関する内容で、今回の誤判断「膝ロッキングだけ」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「膝ロッキングだけ」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「深呼吸や咳で増強する局所胸痛」に関する内容で、今回の誤判断「膝ロッキングだけ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「手指伸展不能だけ」に関する内容で、今回の誤判断「膝ロッキングだけ」の理由ではない。

総合解説：「膝ロッキングだけ」は不適切である。理由は、半月板損傷などでみられる。この論点での適切な判断は「深呼吸や咳で増強する局所胸痛」である。

## JS04-PDF-143

4-5 脊柱・胸郭 > 肋骨 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：肋骨・肋骨骨折の受傷機転を理解する】「胸部への直接打撲や強い体幹捻転」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 胸郭への外力ではない。

イ. 通常は肋骨骨折を起こさない。

ウ. 典型機序ではない。

エ. 転倒・衝突などの直達外力や、スポーツの反復回旋で生じることがある。

## 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「手指屈曲だけ」に関する内容で、今回の「胸部への直接打撲や強い体幹捻転」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「肩を軽くすくめるだけ」に関する内容で、今回の「胸部への直接打撲や強い体幹捻転」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「足趾伸展だけ」に関する内容で、今回の「胸部への直接打撲や強い体幹捻転」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「胸部への直接打撲や強い体幹捻転」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「胸部への直接打撲や強い体幹捻転」が適切である。根拠は、転倒・衝突などの直達外力や、スポーツの反復回旋で生じることがある。

## JS04-PDF-144

4-5 脊柱・胸郭 > 肋骨 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：肋骨・肋骨骨折の胸腔内合併症を理解する】実習生が「手根管症候群」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 小児肘外傷である。

イ. 骨片や胸部外傷で肺・胸膜・血管が損傷すると気胸や血胸を生じる。

ウ. 足部変形である。

エ. 上肢末梢神経障害である。

## 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「肘内障」に関する内容で、今回の誤判断「手根管症候群」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「気胸・血胸」に関する内容で、今回の誤判断「手根管症候群」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「外反母趾」に関する内容で、今回の誤判断「手根管症候群」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「手根管症候群」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「手根管症候群」は不適切である。理由は、上肢末梢神経障害である。この論点での適切な判断は「気胸・血胸」である。

## JS04-PDF-145

4-5 脊柱・胸郭 > 肋骨 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：肋骨・肋骨骨折の呼吸レッドフラッグを理解する】「気胸など胸腔内損傷を疑い緊急評価する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 疼痛・呼吸障害を悪化させ得る。

イ. 気胸・血胸等を合併し得る。

ウ. 緊急評価が必要である。

エ. 呼吸困難は単純骨折痛だけでなく生命に関わる胸部合併症を示唆する。

## 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「強く胸郭を圧迫して確認する」に関する内容で、今回の「気胸など胸腔内損傷を疑い緊急評価する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「肋骨骨折では呼吸障害は起こらないと考える」に関する内容で、今回の「気胸など胸腔内損傷を疑い緊急評価する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「運動を続けて様子を見る」に関する内容で、今回の「気胸など胸腔内損傷を疑い緊急評価する」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「気胸など胸腔内損傷を疑い緊急評価する」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「気胸など胸腔内損傷を疑い緊急評価する」が適切である。根拠は、呼吸困難は単純骨折痛だけでなく生命に関わる胸部合併症を示唆する。

## JS04-PDF-146

4-5 脊柱・胸郭 > 肋骨 難易度：1 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：肋骨・フレイルチェストを理解する】実習生が「コンパートメント症候群」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 足部関節損傷である。

イ. 筋区画内圧上昇の病態である。

ウ. 胸壁遊離節が形成され、換気障害を来す重症胸部外傷である。

エ. 頸部外傷である。

## 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「Lisfranc損傷」に関する内容で、今回の誤判断「コンパートメント症候群」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「コンパートメント症候群」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「フレイルチェスト」に関する内容で、今回の誤判断「コンパートメント症候群」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「外傷性頸部症候群」に関する内容で、今回の誤判断「コンパートメント症候群」の理由ではない。

総合解説：「コンパートメント症候群」は不適切である。理由は、筋区画内圧上昇の病態である。この論点での適切な判断は「フレイルチェスト」である。

## JS04-PDF-147

4-5 脊柱・胸郭 > 肋骨 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：肋骨・フレイルチェストの身体所見を理解する】「胸壁遊離節の奇異性運動」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 総腓骨神経障害でみられる。
- イ. Colles骨折の所見である。
- ウ. 肩関節脱臼の所見である。
- エ. 吸気時に陥没し呼気時に膨隆するなど胸壁の逆説的運動がみられることがある。

## 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「下垂足」に関する内容で、今回の「胸壁遊離節の奇異性運動」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「手関節フォーク状変形」に関する内容で、今回の「胸壁遊離節の奇異性運動」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「肩峰突出」に関する内容で、今回の「胸壁遊離節の奇異性運動」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「胸壁遊離節の奇異性運動」を適切とする根拠に直接対応する。  
総合解説：この論点では「胸壁遊離節の奇異性運動」が適切である。根拠は、吸気時に陥没し呼気時に膨隆するなど胸壁の逆説的運動がみられることがある。

## JS04-PDF-148

4-5 脊柱・胸郭 > 肋骨 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：肋骨・下位肋骨骨折の臓器合併症を理解する】実習生が「アキレス腱断裂」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 足関節後方の損傷である。
- イ. 膝の損傷である。
- ウ. 上肢末梢神経障害である。
- エ. 下位肋骨骨折では隣接する上腹部臓器損傷を伴うことがある。

## 答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「アキレス腱断裂」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「半月板損傷」に関する内容で、今回の誤判断「アキレス腱断裂」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「正中神経麻痺」に関する内容で、今回の誤判断「アキレス腱断裂」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「肝臓・脾臓など腹腔内臓器損傷」に関する内容で、今回の誤判断「アキレス腱断裂」の理由ではない。

総合解説：「アキレス腱断裂」は不適切である。理由は、足関節後方の損傷である。この論点での適切な判断は「肝臓・脾臓など腹腔内臓器損傷」である。

## JS04-PDF-149

4-5 脊柱・胸郭 > 肋骨 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：肋骨・肋骨疲労骨折を理解する】「肋骨疲労骨折」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 股関節周囲の骨折である。

イ. 反復する体幹回旋負荷で肋骨疲労骨折を生じることがある。

ウ. 手関節の骨折である。

エ. 局所が異なる。

## 答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「大腿骨頸部骨折」に関する内容で、今回の「肋骨疲労骨折」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「肋骨疲労骨折」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「橈骨遠位端骨折」に関する内容で、今回の「肋骨疲労骨折」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「足趾骨折」に関する内容で、今回の「肋骨疲労骨折」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「肋骨疲労骨折」が適切である。根拠は、反復する体幹回旋負荷で肋骨疲労骨折を生じることがある。

## JS04-PDF-150

4-5 脊柱・胸郭 > 肋骨 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：肋骨・肋骨骨折後の呼吸管理を理解する】実習生が「胸郭を強く全周性に締め続ける」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 疼痛による低換気は肺合併症につながるため、呼吸を保てる疼痛管理が重要である。

イ. 症状経過と呼吸状態を評価する。

ウ. 胸腔内損傷の評価が必要である。

エ. 呼吸運動を制限し換気障害を招く。

## 答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「疼痛を適切に管理し、浅い呼吸が続かないよう呼吸状態を観察する」に関する内容で、今回の誤判断「胸郭を強く全周性に締め続ける」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「咳・深呼吸時痛は必ず無視する」に関する内容で、今回の誤判断「胸郭を強く全周性に締め続ける」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「呼吸困難が出て経過観察だけにする」に関する内容で、今回の誤判断「胸郭を強く全周性に締め続ける」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「胸郭を強く全周性に締め続ける」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「胸郭を強く全周性に締め続ける」は不適切である。理由は、呼吸運動を制限し換気障害を招く。この論点での適切な判断は「疼痛を適切に管理し、浅い呼吸が続かないよう呼吸状態を観察する」である。